

令和元年度富山大学
教養教育院 F D 2019 報告書

テーマ
学生と考えるおもしろい授業

開催：令和元年 9 月 25 日（水）

教養教育院

教養教育院教育改善検討
ワーキンググループ

目 次

1. 開催趣旨	1
2. 教養教育院FD2019開催要項	2
3. 「教養教育院FD2019」参加状況	3
4. 第1部：なぜカリキュラム改革が必要なのか	5
5. 第2部：他大学に学ぶ取り組み事例	13
① 初年次教育	15
② 学生の主体性を促す取組	23
③ 外部試験を取り入れた英語教育	37
④ 初年次におけるキャリア教育	45
⑤ 地域に出て体験から学ぶ事例	65
⑥ カリキュラム構成の見直し	81
6. 第3部：富大の授業をおもしろくするために	93
7. 第4部：まとめと講評	101
8. 教養教育院FD2019アンケート	105
・ 教養教育院FD2019アンケート結果	109
9. 教養教育院FD2019に寄せて	113

教養教育院 F D 2019

テーマ：「学生と考えるおもしろい授業」

○ 開催趣旨

昨年度（2018年度）、3キャンパスに分かれていた教養教育が一元化され、平成5年度以来四半世紀（25年間）続いた教養教育に代わる新しい教養教育がスタートしました。その結果、それ以前より幅広く多彩な科目を選択できるようになり、新しい科目もいくつか創設されました。とはいえ、カリキュラム構成をみると、従前の科目・科目構成はそのまま残してあり、大きな違いがあるとはいえません。

2040年度には18歳人口は現在の7割に減少します。大学は規模の縮小が求められる一方で、入学してくる学生の学習能力の低下が危惧されるどころです。大学には教育の質の維持ばかりか不確定な時代に対応できる人材を育成するために、教育内容や教え方の転換が要請されています。そのような要請に応えるために、多くの大学では教育改革・カリキュラム改革が取り組まれています。教養教育改善検討ワーキンググループでは、全国の大学から25大学を絞り込み、教養教育カリキュラムの実施状況を調査しました。調査したワーキンググループ委員はほぼ一様に、「他大学は本気で教育改革に取り組んでいる」という感想を述べています。この調査結果を全学の教員に伝え広め、問題意識を共有する。これが本FDの目指すところです。

本FDの第一部「なぜカリキュラム改革は必要なのか」では、時代の要請に沿った大学教育について説明し、富山大学の教養教育が目指すべき姿を提案します。第二部では、本学では実施されていない他大学の特筆すべき教育プログラムの事例を紹介します。第三部は、「富大の授業をおもしろくするために」というテーマで、学生を交えて総合討論を行います。FDのテーマにある「おもしろい授業」という言葉は、ただ単に面白いというよりも、“学生が主体的になれる”、“学生が成長を感じられる”など、学生の視点が重要であることを表しています。

最後に、本FDが富山大学の教育改善の一助となり、さらに現実に変革のための一歩を踏み出す機会となることを切に願うものです。目指すべき教養教育は、学生たちの人間力を高め、専門教育を支える土台となるものです。私たち教養教育院は、学部と連携・協力して、富山大学全体の教育の向上・変革に向けて歩んでいきます。

教養教育院改善検討WG座長

谷井一郎

教養教育院 F D 2019

テーマ：「学生と考えるおもしろい授業」

研 修 内 容

1. 開催日時：令和元年9月25日（水） 9：00～12：00

2. 場 所：富山大学共通教育棟 A21番教室

3. 日 程

- | | | | | | |
|-----|----------------------|---------------|-------------------|--------|-------|
| (1) | 開会・オリエンテーション | | | 9：00～ | 9：05 |
| | ・ 開会のあいさつ | 鳥海清司 | (教養教育院副院長) | | |
| | ・ 日程説明 | 谷井一郎 | (教養教育院教育改善検討WG座長) | | |
| (2) | 第1部：なぜカリキュラム改革が必要なのか | | | 9：05～ | 9：25 |
| | ・ プレアンケート実施 | | | | |
| (3) | 第2部：他大学に学ぶ取り組み事例 | | | 9：25～ | 10：45 |
| | 事 例 | 報 告 | 司 会 | 時 間 | |
| ① | 初年次教育 | 谷口教員 | 谷井座長 | 9：25～ | 9：35 |
| ② | 学生の主体性を促す取組 | 水谷教員 | 谷口教員 | 9：35～ | 9：45 |
| ③ | 外部試験を取り入れた
英語教育 | 〃 | 〃 | 9：45～ | 9：55 |
| | - - - 休憩 | (9：55～10：05) | - - - | | |
| ④ | 初年次におけるキャリア
教育 | 杉森教員 | 水谷教員 | 10：05～ | 10：15 |
| ⑤ | 地域に出て体験から
学ぶ事例 | 〃 | 〃 | 10：15～ | 10：25 |
| ⑥ | カリキュラム構成の
見直し | 谷井座長 | 杉森教員 | 10：25～ | 10：35 |
| ⑦ | 質疑応答 | | | 10：35～ | 10：45 |
| | - - - 休憩 | (10：45～10：55) | - - - | | |
| (4) | 第3部：富大の授業をおもしろくするために | | | 10：55～ | 11：45 |
| | ① 全体討論 | | | | |
| | ・ ポストアンケート実施 | | | | |
| (5) | 第4部：まとめ及び講評 | | | 11：45～ | 12：00 |
| | ・ 磯部理事，武山理事 | | | | |
| (6) | 閉会 | | | 12：00～ | |
| | ・ 閉会のあいさつ | 武山良三 | (教養教育院長) | | |

「教養教育院FD2019」参加状況

所 属 部 局 等	参加人数
教養教育院	18
人文学部	1
人間発達科学部	1
経済学部	2
医学部	3
理学部	2
工学部	4
都市デザイン学部	4
芸術文化学部	2
教育推進センター	1
総合情報基盤センター	3
国際機構	2
地域連携推進機構 生涯学習部門	2
研究推進機構 産学連携推進センター	1
学生	2
事務職員他	12
合 計	60

教養教育院 F D 2019

第 1 部資料

教養教育院FD2019

テーマ

「学生と考えるおもしろい授業」
カリキュラムの充実をみんなで考えよう！

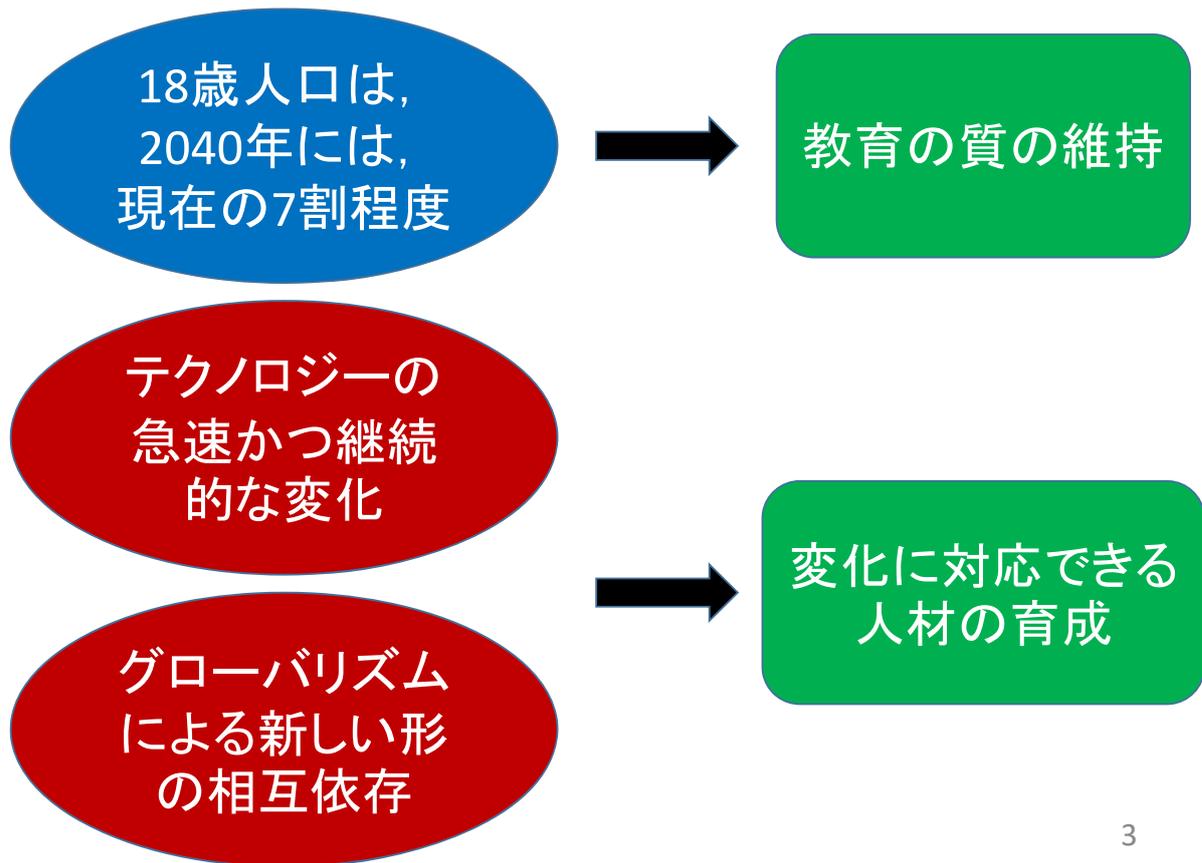
1

プログラム第1部:

なぜカリキュラム改革が必要なのか

教養教育院 谷井 一郎

2040年に向けて、社会変化に対応した教育



3

2040年に必要とされる人材

21世紀型市民像

1. 専門分野についての専門性を有するだけでなく、
2. 思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、
3. 幅広い教養を身に付け、
4. 高い公共性・倫理性を保持しつつ、
5. 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、
6. 論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する

中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」より

人間力を高める

自らが今どのような地点に立っているかを見極め(2, 3, 4),
今後どのような目標に向かって進むべきかを考え(5),
目標実現のために主体的に行動する力を培う(6)

4

高等教育の目指すべき姿

「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」

教育内容の改善

「何を教えたか」(＝教えた内容)から、
「何を学び、身に付けることができたか」
(＝学修者が必要な内容)への転換



学修者が学んで身に付けたことを社会に対し説明し、
納得が得られる体系的な内容となるよう、
カリキュラムの全体の構成や内容を見直すことが必要

カリキュラム改革

5

学生の視点に立った教育内容・構成の改革

教員側からの“知識伝授を重視した講義”ではなく、

21世紀を生き抜き、社会を支える学修者側からみて

“必要な”“成長を感じられる”“主体的になれる”

生涯にわたって学び続けるための

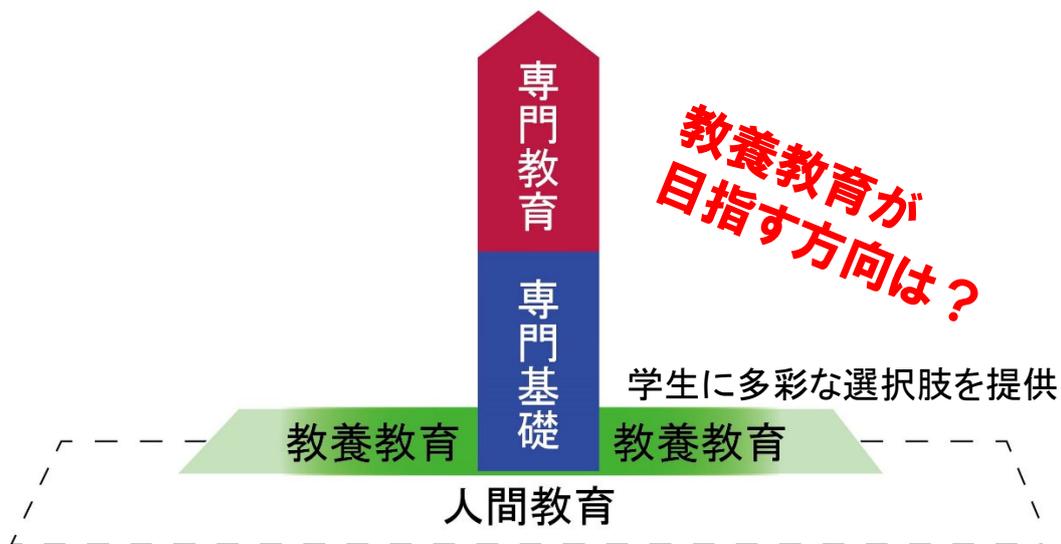
能力を伸ばす授業を体系的に編成し直す



学生視点のカリキュラム改革

6

現在の富山大学の教養教育の概念図

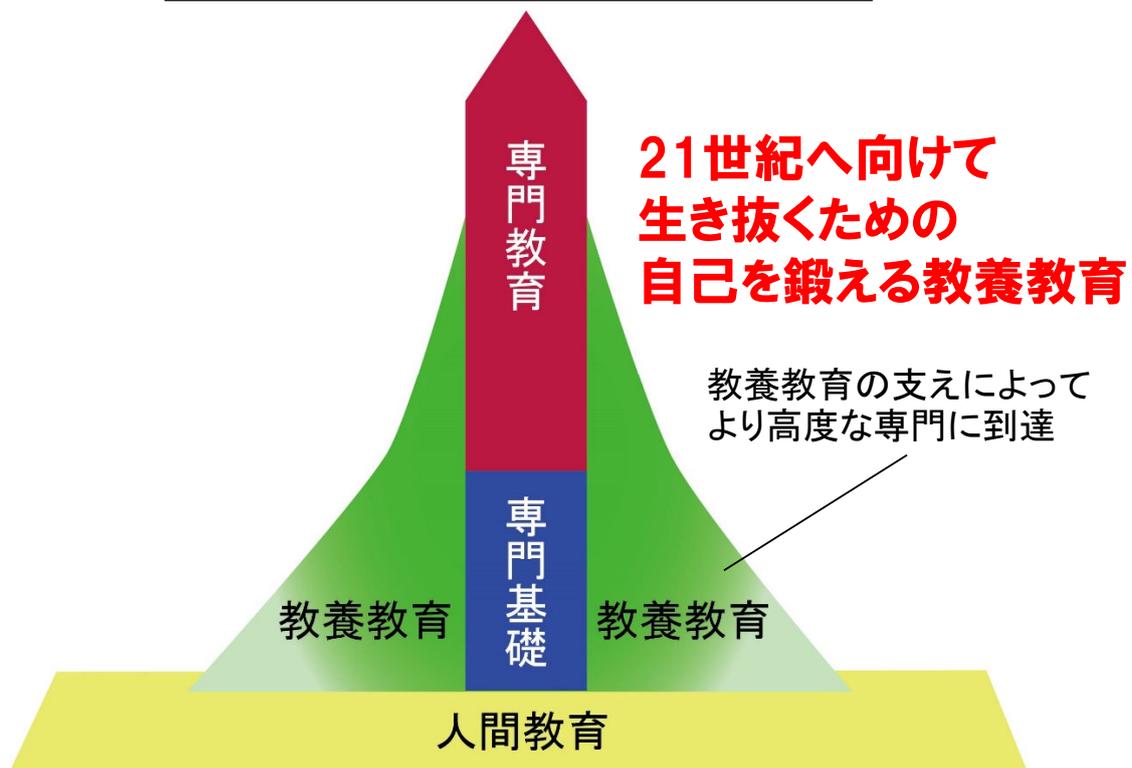


課題

- 教養教育が1年次に限定され、専門を支える存在になりえていない
- 職業とのつながりが意識されず、主体的な学びを涵養していない
- 人間教育はあまり意識されていない

7

富山大学の教養教育の将来像



地域社会で成長する過程において形成される経験的知識やものの見方、倫理観、責任感、価値観、感性等を養う人間教育

8

富山大学の教養教育が重点を置く点

学修者の「主体的学び」の質や「人間力」を高める

「将来」との結びつきから学ぶ意欲を引き出す

- 将来の職業とのつながりを意識させるための取り組み
- 人生全体を見渡して、考え、学ぶことのできる機会の提供

「体験」を通じて大人となる基礎(人間力)を培う

- 地域や社会での体験活動の充実
- 異文化を体験する活動の充実

9

他大学に学ぶ取り組み事例紹介

1. 初年次教育
2. 学生の主体性を促す取り組み
3. 外部試験を取り入れた英語教育
4. 初年次におけるキャリア教育
5. 地域に出て体験から学ぶ取り組み
6. カリキュラム構成の見直し

10

教養教育院 F D 2019

第 2 部資料

	ページ
① 初年次教育	15
② 学生の主体性を促す取り組み	23
③ 外部試験を取り入れた英語教育	37
④ 初年次におけるキャリア教育	45
⑤ 地域に出て体験から学ぶ取り組み	65
⑥ カリキュラム構成の見直し	81

事例項目：初年次教育
担当者：谷口 美樹

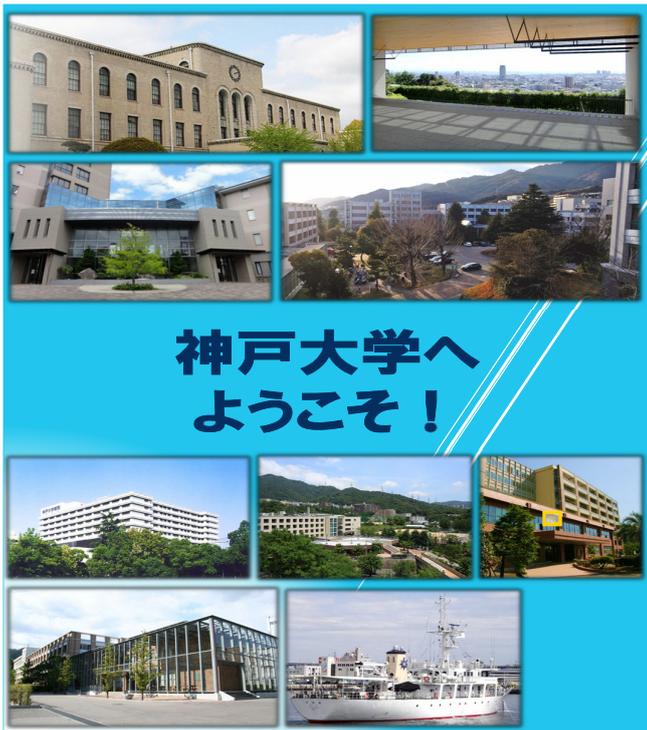
初年次教育

大学の学修文化に出会う

神戸大学	初年次セミナー共通教材の開発	
東京工業大学	東工大立志プロジェクト 教養卒論 学年を超えたつながり	— 講義・徹底議論（共感力を高める） — 3年次に再結集 — 修士学生ファシリテーター
山口大学	学生とともにカリキュラム改革 学生が自らを客観視する機会となる、ループリックの工夫	

1

神戸大学



初年次セミナー共通教材

- 第1章 大学とはどんなところか
- 第2章 大学のカリキュラムについて知ろう
- 第3章 学内の各種システムやリソースを活用しよう
- 第4章 大学生活で求められるマナーやルールを知ろう

2

第1章 大学とはどんなところか

大学の使命、アカデミック・フリーダム、リベラル・アーツ、**問いを立てる**、学修を振り返る、通説を疑う、
大学教員（ファカルティ）、大学職員、大学院生、留学生チューター、神戸大学の特色

第2章 大学のカリキュラムについて知ろう

時間割を作成する—作成した時間割に責任を持つ、全学共通授業科目、学部専門科目、「2学期クォーター制」、「神戸スタンダード」、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、科目ナンバリング、「授業振り返りアンケート」、「学修の記録」

第3章 大学のリソースを最大限に活用しよう

大学の予算—国民によって支えられている、大学の施設・設備、「うりぼーポータル」、「うりぼーネット」（教務情報システム）、「BEEF」（学修支援システム）、附属図書館、ラーニングコモンズ、留学プログラム、学生支援窓口を活用しよう

第4章 大学生活で求められるルールやマナーを知ろう

不正行為、参考文献、剽窃、メールを書くときの基本マナー、通学時や大学生活上のリスク、**多様な他者の学び、異なる価値観を尊重しよう**、ハラスメント

3

DISCUSSION

より抜粋

神戸大学

- **大学と高校の違い**について周りの学生と**話し合ってみましょう**。
- 神戸大学を選んだ理由、今の学部を選んだ理由について、周りの学生と**話し合ってみましょう**。
- 4（6）年間の学生生活でしたいこと（部活動・留学・ボランティア・インターンシップ・アルバイトなど）を周りの学生と**共有してみよう**。
- **作成した時間割表**を他の学生と見せ合って**意見交換**しましょう。学部・学科が指定する履修要件は満たしていますか。見落としはありませんか。一定期間内の履修取消は可能ですが、履修上限単位数（CAP（キャップ）制）に留意し、履修計画を立てるようにしましょう。
- **附属図書館**では学生向けにさまざまなガイダンスやセミナーを実施しています。図書館のホームページを見て、どれか一つに友だちと一緒に**参加してみよう**。
- 神戸大学**キャリアセンター**のホームページを開き、神戸大学およびあなたの学部の就職状況はどうなっているか**調べてみましょう**。
- 下記のサイトを見て、神戸大学およびあなたの学部が協定を結んでいる海外の大学を**確認**してみましょう。
- あなたの学部・学科のアカデミック・ルールは**どうなっていますか**。たとえば、**調査、実験などの作法、発表の作法、論文の形式、参考文献の表記方法**について調べてみてください。
- 神戸大学に知り合いの**留学生**がいれば、日本で生活する上でのルールやマナーで一番苦労した点は何かを**インタビュー**してみましょう。
- SNSの効果的な利用法、あるいは失敗談について**話し合ってみてください**。

4

神戸大学初年次セミナー

- 全8回（共通教材は授業3回分程度）
- 共通教材の具体的な運用（最初に扱うのか、最後に扱うのか、どのように行うのかなど）
各学部による
- 自学部生・1クラス10～30名
- 必修1単位

1年次	2年次	3年次	4年次
基礎教養科目		高度教養科目	
総合教養科目			
初年次セミナー		専門科目	

2014年度から2年間かけて
基本方針・ガイドライン・共通教材を整備
⇒2016年度より実施

実施の背景

- 新入生に周知すべき内容の増加
- 教員数は頭打ちのまま提供すべき教育プログラムの増加 ⇒教員の負担軽減
- 事務職員の定員削減 ⇒事務職員の負担軽減

出典：近田政博（神戸大学 大学教育推進機構教授）
「神戸大学『初年次セミナー』の合意形成過程」
神戸大学大学教育推進機構『大学教育研究』第24号2016年3月

東工大立志プロジェクト

入学直後 週2回（木・月）7セット+最終回=計15回 1学年約1100人全員受講 必修科目

木曜日 講義（大講堂、講師は池上彰特命教授や劇作家の平田オリザ氏、社会活動家など）



月曜日

約28名ずつ40の少人数クラス
（専門の違う学生が混ざり合う）
1人の担任、4人1組・全体セッション

木曜日の講義について徹底的に討論
各人各様の批判的思考を持って議論し、
互いへの共感力も高める

（課題図書約100冊から選んで書評を書き、
相互に論評し合うセッションもある）

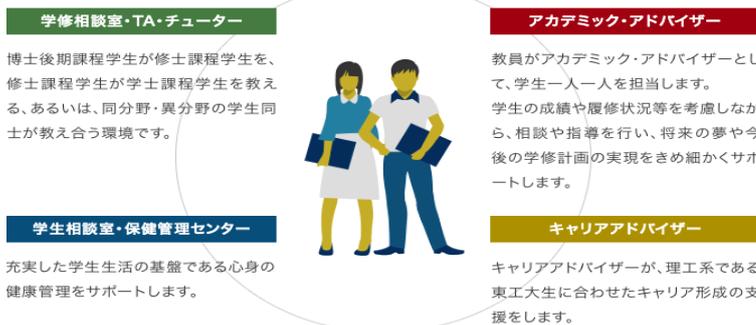
最終回

ひとりひとりがこれからの大学生活のなかで、
どのような志を持って取り組んでいくのかを
発表する

教員がアカデミック・アドバイザーとして、
学士課程入学時から卒業・修了まで学生一人一人を担当

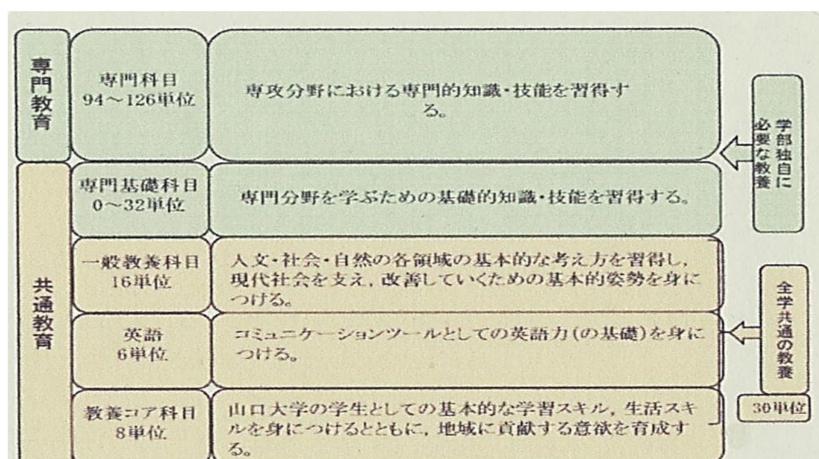
学生の成績や履修状況等を考慮しながら相談や指導を行い、
学生が作成する東工大学修ポートフォリオを参照し、
将来の夢や今後の学修計画の実現をきめ細かくサポート

特に、**大学生活に不慣れな学士課程入学1年目には、
セミナー又は面談等を通して、高校と大学の違いを含め、
大学における学修方法や大学生活に関してサポート**



カリキュラム改革を検証する

2013年度から
共通教育のカリキュラム改革に取り組む



※共通教育 計30単位 パッケージ化
※すべての学部の必修科目
(共同獣医学部・国際総合科学部を除く)

※教養コア系列

「基礎セミナー」「山口と世界」「運動健康科学」「知の広場」「キャリア教育」
「情報リテラシー演習」「情報セキュリティ・モラル」

a 2014年10月～11月実施

大学による調査

(共通教育カリキュラム改革に関するアンケート調査)

全学の教員 (388名: 全教員の35.7%)

学生 (1264名: 2年次 (2013年度に共通教育を履修した学生) 63.1%)

b 2013年度～2015年度の3カ年実施

研究者による調査

(新しい共通教育に関するアンケート調査)

「山口と世界」履修学生

(1年次: 3年間合計428名)

	大学調査	研究者調査
調査対象者 および調査人数	教員388名(35.7%) 学生1,264名(2年次生(平成25年度共通教育を履修した学生を対象): 63.1%)	学生 1年次生 平成25年度: 73名 (男子32名 女子39名 不明2名) 平成26年度: 169名(男子81名 女子85名 不明3名) 平成27年度: 186名(男子105名 女子81名)
調査時期	平成26年10月14日(火)～ 11月21日(金)	平成25年度: 平成25年10月 平成26年度: 平成26年10月 平成27年度: 平成27年11月
調査対象者の 詳細	教員: 人文13名、教育52名、 経済20名、理24名、医164名、 工62名、農11名、共同獣医7 名、その他(機構、研究所 等)33名 学生: 人文103名、教育110 名、経済157名、理213名、医 166名、工440名、農72名、	学生: 理系学部(理学部・農学 部・共同獣医・医学部)学生等が 対象

⇒ 学生の意見 より抜粋

・義務感がかなりあり、学生が自主性を持って学んでいく意欲を失わされている感じが大きいにある。やらされている授業では面白くない

・「山口と世界」は、先生により内容や成績評価に差があり過ぎる

11

対応策

1 自由に選択できる科目群をつくる

「教養展開系列」を設け、
「国際展開(グローバル人材のための日本企業文化理解講座等)」「地域展開(ボランティア教育等)」「知財展開(ものづくりと知的財産等)」を設置

2 「同じ科目名でも担当者により成績評価が異なる(33.7%)」「成績評価基準が不明(28.9%)」「レポートの課題の採点基準が不明(27.8%)」

⇒「山口と世界」などのアクティブラーニング系科目で「ループリック評価」などを導入

授業担当者を対象としたFD研修会を通じて、成績評価基準の明確化・客観化の向上に努める

⇒教養コア系列科目「山口と世界」の授業改善

※「山口と世界」

チームで、山口に関連する課題・テーマを設定し、情報を収集し、分析し、解決策や企画をまとめ、口頭や紙媒体(もしくは映像やWeb)で発表し、地域や国際的環境で活かす力を養う授業

※「山口と世界」の共通目標

アクティブ・ラーニングを通して、研究や社会実践の基本的なプロセスについて、学習の仕方やリサーチリテラシーの基本を学修することが目的である。

※40名程度(1グループ5～6名)

※学部混成

※1年次(Q2/Q3/Q4)全8回

※30数科目を併置

12

出典: 小川勤(山口大学大学教育機構)

「共通教育のカリキュラム改革における成果と課題に関する研究—アンケート調査からみる成果と課題」
『大学教育』13、2016年3月

基準	内容	グループワーク・プレゼンテーションを通じた個人ポートフォリオ
発見する	山口大学の歴史に関連するテーマ設定、企画立案	【あなたは、グループにおいて、山口大学の歴史に関連するテーマ設定、企画立案に関し、どのように取り組みましたか。具体的に記入してください】
はぐくむ	テーマ設定、企画にもとづく情報収集およびコミュニケーション	【あなたは、グループにおいて、テーマ設定、企画にもとづく情報収集およびコミュニケーションに関し、どのように取り組みましたか。具体的に記入してください】
かたちにする	編集、作品化、発表資料、レポート等、プロダクツの作成	【あなたは、グループにおいて、発表資料等のプロダクツの作成に関し、どのように取り組みましたか。具体的に記入してください】
分かちあう	公開、プレゼンテーション、チームワーク	【あなたは、グループにおいて、プレゼンテーションやチームワークに関し、どのように取り組みましたか。具体的に記入してください】
振り返る	他者および自分（たち）の企画およびプロダクツの評価。今後の地域や国際的環境での〈発見する〉につながる	【あなたは、グループにおける企画、発表資料、プレゼンテーションに関し、どのように評価し、振り返りを行いましたか。具体的に記入してください】

出典：林透・星野普（山口大学大学教育機構）「ループリック開発に関する実践的研究
 ー初年次教育科目『山口と世界』を中心に」『大学教育』12、2015年3月

基準	観点	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
課題認識	課題を認識し、その解決に必要な情報の範囲を定める	自ら調査・研究テーマを設定し、仮説を立てることができる	課題に沿ったテーマを設定できている	課題の意図を正しく理解できている	課題の意図を理解できていない
情報探索の計画	情報の適切・効率的な探索を計画する	信頼性の高い情報を選択できている	課題の解決に適した信頼性の高い情報源を推測することができる	貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関する図書館サービスを利用できている	貸出・予約・レファレンスサービス等、文献入手に関する図書館サービスについて理解していない
情報の入手	探索計画に基づき、課題解決に必要な情報を適切・効率的に入手する	先行論文等の引用文献リストを利用し、計画的に探索できている	情報ニーズに合う文献やメディアを効率的に選択できている	図書館における資料や検索ツールを利用しながら、情報探索することができる	図書館における資料や検索ツールをうまく利用できていない
情報の分析・評価	収集した情報を批判的に分析・評価し、情報を整理・管理する	収集した文献情報を活用できるように組織化できている	入手した情報の正確性・真正性と、調査テーマとの関連性を評価できている	情報を取捨選択し、活用できるように整理することができる	情報の取捨選択ができていない
情報を批判的に検討し知識を再構造化	整理した情報を批判的に検討することで自らの知識を再構造化する	得た情報を一般的概念として構成し、新たに適用することで知識として再構成できている	選択した情報を自分の文脈で意味付け、自分の言葉で説明できている	入手した情報を比較・分類し、自らの考えとの類似点や相違点を説明できている	入手した情報を客観的に捉えることができていない

出典：林透（山口大学大学教育機構）「教員・職員・研究者協働によるAL型授業改善に関する実践的研究
 ー「山口と世界」での実践事例を通してー」『大学教育』16、2019年3月

事例項目: 学生の主体性を促す取り組み
担当者: 水谷 秀樹、福田 翔

徳島大学

SIH道場

～アクティブ・ラーニング入門～

高大接続改革推進事業 大学教育再生加速プログラム(AP)
(補助事業期間: 平成26年度～31年度(6年間))
徳島大学総合教育センター教育改革推進部門

1

「SIH道場」(配付資料参照: 学生と教員が共に成長するSIH道場～アクティブ・ラーニング入門)

①「鉄は熱いうちに打て(Strike while the Iron is Hot)」の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験等によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目。

②SIH道場の目標

・学生: ラーニングスキルの向上

- 1) 専門領域早期体験による学習の動機づけ
- 2) ラーニングスキル(文章力、プレゼンテーション力、協働力)の修得
- 3) 振り返りをとおした能動的学習力の基礎固め

期待される効果→高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

2

・教員:ティーチングスキルの向上

1) 実践を通じたアクティブ・ラーニングの実質化。

2) 反転授業等の手法の修得→反転授業のビデオ教材を作成

SIH道場の概要および三つのラーニングスキル(「文章力」「プレゼンテーション力」「協働力」)について、事前学修・事後学修で使用可能なビデオ教材をMoodle上で提供している。

ビデオ視聴後のクイズ(確認テスト)、参考文献リストも掲載しており、コーディネーター、授業担当教員は、これらのビデオ教材を用いた授業設計を行うことができる。

学生は、Moodle上の学生用コースから、テキスト、ルーブリック、反転授業用ビデオを観て、事前学習・事後学習に役立てられるようにしている。

3) 教育経験を振り返る機会をもつ。

(配付資料参照:アクティブラーニングに関する自己診断チェックリスト)

期待される効果→大学全体にアクティブ・ラーニングが拡大

3

【SIH道場の履修】

①徳島大学の1年次全員が前期に受講する初年次教育科目。

(主な目的)

(1) 専門分野の早期体験

(2) ラーニングスキルの修得

(3) 学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につける

②教養教育開設授業科目(8つの科目群に区分)の、「汎用的技能教育科目群」のなかのひとつとして開講。

(配付資料参照:教養教育開設授業科目)

・1単位必修 8回の講義。

・学生が所属する学部学科によって定められた履修要件に従って、8つの科目群から授業科目・授業題目を選んで履修する。

4

③実施体制

1. 大学教育委員会に理事(教育担当)を委員長とする「大学教育再生加速プログラム実施専門委員会」(教員25名・職員4名)を設置
2. 各学部・学科の授業コーディネーター(17名)
3. 各学部・学科の授業担当者
全教員が順次担当
(平成30年度:学部1年生(1303人)に対し、184名の教員が担当)
4. 総合教育センター教育改革推進部門
5. SIH道場コンテンツ作成WG(8名)

授業計画から準備、実施、振り返りまでの過程を担当。

5

・学生:ラーニングスキルの向上

- 1) 専門領域早期体験による学習の動機づけ
- 2) ラーニングスキル(文章力、プレゼンテーション力、協働力)の修得
- 3) 学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につける

期待される効果→高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

6

(1) 専門分野の早期体験

- ・総合科学部:大塚美術館見学
- ・医学部:診療現場体験、先輩の講演の聴講(「チーム資料入門」)他
- ・歯学部:気づきの体験学習、相互歯磨き学習
- ・薬学部:先輩の講演の聴講(「チーム医療入門」)
- ・理工学部:現場見学、「機械科学実験 I」での技術体験、研修旅行、「STEM演習」における電気電子工学の演習、研究室見学
- ・生物資源産業学部:学外研修とレポート作成

7

(2) ラーニングスキルの習得

1) 文章力

「文章力」とは、自分の考え(学修した内容・考察)を文章による表現で、ルールを守り、効果的に相手に伝える能力を習得する場所と位置付けている。

- ・読書レポートの作成(総合科学部、歯学部)
- ・体験学習レポートの作成(保健学科)
- ・WS時にKJ法で出た意見をまとめる(薬学部) など。

2) プレゼンテーション力

「プレゼンテーション力」とは、自分の考え(学修した内容、考察)を口頭による説明や資料を用いて、効果的に伝える能力と位置付けている。

- ・作成したプロダクトに基づきプレゼン(栄養学科)
- ・「先輩からのメッセージ」でのプレゼンを評価(保健学科)
- ・体験学習に関するプレゼント質疑応答(理工・社会基盤デザインコース) など。

8

(2)ラーニングスキルの習得

3)協働力

「協働力」とは、1つの課題に対して他者と協力して取り組むことのできる力を位置付けている。

- ・仕事に対する将来像についてKJ法ワーク(保健学科)
 - ・「新入生研修」でのコンセンサスゲーム(歯学部)
 - ・課題発見ゼミナールにおいて共同でのプレゼン作成・実施(総合科学部)
- など。

9

(3)学習の振り返り

学生は自身の学習について振り返り、フィードバックを受けることで、学習の進捗を踏まえた今後の学習計画を考えることができ、学習意欲の向上にも繋がる。

教員はルーブリック評価表を用いて学生にフィードバックする。

(ルーブリック:配付資料参照)

(例)総合科学部

1)文章力

Moodleを用いて、提出した読書レポートに対する担当教員のコメント。

2)プレゼン力、3)協働力

学生は、グループ内で相互評価。

課題発見ゼミナールの最終授業において、成果の発表会やグループ

ワークを通じ学習の振り返りを行い、教員は評価コメントをフィードバックする。

10

平成30年度 SIH道場

・受講学生の満足度 87%

- 「体験学習で専門分野に対する興味関心が高まった」
- 「協働する際の留意点を理解した」
- 「学修を振り返ることの重要性を理解した」
- 「能動的学修の重要性を理解した」

・教員へのアンケート結果

「1.SIH 道場の目標を理解して授業を行った」、「2.アクティブ・ラーニング型授業の意義を理解した」については、「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を選択した教員が、大学全体でそれぞれ92%、93%となっており、多くのプログラムで、SIH 道場の意義や手法についての理解が進んでいる結果になった。

主な参考資料

『平成30年度 徳島大学 大学教育再生加速プログラム事業実施報告書』

- ・SIH道場～アクティブラーニング入門～の取り組み
- ・平成29年度の外部評価の結果・平成30年度事業に対する自己評価
- ・教員と学生が共に学ぶSIH道場～アクティブ・ラーニング入門～

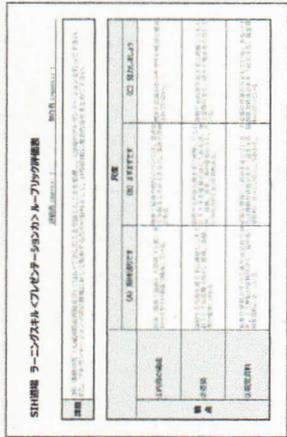
Information

SIH 道場で使用可能な教材

SIH 道場のテキスト、反転授業のビデオ教材 (SIH 道場)「ラーニングスキル (文筆力・プレゼンテーション・協働力)」, ループブリック (ラーニングスキル) のサンプルを提供しています。内容を変更して使用することもできます (ループブリック等)。



【SIH 道場テキスト】



【SIH 道場<プレゼンテーションカ>ループブリック】

◆反転授業ビデオ教材は、徳島大学 LMS (Moodle) から視聴することができます。

URL : <https://moo.chitokushima-u.ac.jp/>

1!共通教育科目・専門科目での取組事例

徳島大学で行われているアクティブ・ラーニングの手法、反転授業などの実践を共有するために、事例カードを作成しています。授業方法の要点をまとめた内容となっておりますので、導入の際のヒントになります。

◆反転授業 (知識定着のための積極演習)	
目的	授業内容を20~25分程度自学し、授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。
教育目標	反転授業による知識定着を図る。また、授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。
概要	授業開始前に、moodle等で事前学習を確認する。授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。
分類	授業方法
所属学部	工学部
学生の学習形態	自主学習
評価方法	授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。
留意点	事前学習の進捗を確認する。また、授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。
実施の中心人物	教員
学生の応答	事前学習の進捗を確認する。また、授業開始時に、moodle等で事前学習を確認する。事後は、質疑応答による知識定着を図る。

【学生の学習を促進する授業事例カード】

◆平成28年度に LMS で公開を予定しています。

発行

徳島大学大学教育再生加速プログラム実施専門委員会

平成 28 年 1 月

URL : <http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/>

問合せ先

徳島大学 学務部教育支援課 教育企画室

Tel : 088-656-7679

Mail : kyikikakuk@tokushima-u.ac.jp



STRIKE WHILE THE IRON IS HOT.

「鉄は熱いうちに打て」
(SIH : Strike while the iron is Hot)

SIH 道場は、徳島大学の学部 1 年生
全員が受講する初年次教育プログラムです
開始初年度の平成 27 年度は、
15 プログラムが展開されています
(担当教員数 : 188 名、受講学生数 : 1324 名)



大学教育再生加速プログラム

徳島大学 大学教育再生加速プログラムテーマ アクティブ・ラーニング

学生と教員が共に成長する

SIH 道場 ~ アクティブ・ラーニング入門 ~

SIH 道場の目標

▶ 学生 : ラーニングスキルの向上

- ① 専門領域早期体験による学習の動機づけ
- ② ラーニングスキル (文筆力・プレゼンテーション・協働力) の修得
- ③ 振り返りをおとした能動的学習力の基礎固め

期待される効果

高度専門職業人の基礎的能力を備えて卒業

▶ 教員 : ティーチングスキルの向上

- ① 実践を通じたアクティブ・ラーニングの実質化
- ② ループブリックによる評価、反転授業等の手法の修得
- ③ 教育経験を振り返る機会をもつ

期待される効果

大学全体にアクティブ・ラーニングが拡大

平成27年度 SIH 道場学生アンケート結果からみた効果

- ◆ 学生の SIH 道場プログラムの満足度は、全体で見ると 83% という結果でした (回答率 87.5%)
- ※ 地方、教員の SIH 道場プログラムの満足度は、49% という結果でした (回答率 33.9%)
- ◆ SIH 道場プログラムについての全ての項目において、肯定的回答が 7 割を上回るという結果でした
- ▶ 平成 27 年度 SIH 道場の取組は総じて一定の成果をあげていると言えます

アクティブ・ラーニング推進の背景

○中央教育審議会審申（平成24年）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」
 「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。…学生が主体的に問題を見出し、解決を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」

○文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）（平成26年度より公募）
 「アクティブ・ラーニング（テーマ1）」等を行う取組を重点的に支援する

※徳島大学は、平成26年度にテーマ1に採択されました。（テーマ1採択校は、94件申請中9件）

大学教育再生加速プログラムの数値目標

指標	H25年度	H26年度	H28年度	H29年度	H30年度
AL（アクティブ・ラーニング※）を導入した授業科目数の割合	47.1%	50.4%	60%	70%	80%
AL科目のうち、必修科目数の割合	41.3%	42.7%	50%	55%	60%
ALを受講する学生の割合	100%	100%	100%	100%	100%
学生1人当たりAL科目受講数	11科目	12科目	13科目	15科目	18科目
ALを行う専任教員数	371人	446人	450人	500人	550人
学生1人当たりのAL科目に関する授業外学修時間（1週間当たり）	4時間	5時間	8時間	9時間	10時間
ALをテーマとしたFDに参加した教員の割合	—	—	100%	100%	100%
LP（ラーニング・ポートフォリオ※）を導入した授業科目数の割合	—	—	5%	—	10%
反転授業※を導入した授業科目数の割合	—	—	4%	—	8%

◆「必須指標」は採択大学に共通、「設定指標」は徳島大学独自で設定

徳島大学では、赤字のキーワードを次のように定義しています

！アクティブ・ラーニング

教員による一方的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学習のこと。
 （平成26年5月21日 大学教育委員会承認）

！ラーニング・ポートフォリオ

授業のある単元が終了した後で、学生が学習（実験、実習、演習等）に関する省察を行い、その内容を記述し、他者と共有を行い、他者からのフィードバックを受けるシステムまたは教材等を使用している授業。

！反転授業

学生が授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に学習し、その内容に関する確認を行うための課題（簡単な復習テスト等）を設定し、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学習を促進する授業。

学生の能動的学習を促すために

◆SIH道場で実践した「アクティブ・ラーニング」「ラーニング・ポートフォリオ」「反転授業」等の教育手法を、担当する他の科目へ導入する際には、以下の要点を再確認するとよいでしょう。

！アクティブ・ラーニングの手法で能動的学習を促す

利点 学生の思考が活発化され、能動的な学習を促すことができる。

方法

- 課題演習 学生と教員、学生同士の双方向で、課題や演習の解説・確認を行う
- 質疑応答 学生が教員や他の学生に質問しフィードバックを得る双方向の仕組みを設定する
- 振り返り 学生が学んだことについてまとめることで省察を行い、それを学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う時間を設ける
- グループワーク グループで、1つの課題を解決するための学習、調査、考察等を行い、その成果物を作成させる
- ディスカッション 1つのグループを形成し、1つのテーマについて議論を行い、その成果物を作成させる
- プレゼンテーション 1つ以上の課題またはテーマについて、学生に他の受講者に対してプレゼンテーションさせる

！ラーニング・ポートフォリオで自律的学習を促す

利点 学生は自身の学習について振り返り、フィードバックを受けることで、学習の進捗を踏まえた今後の学習計画を考へることができ、学習意欲の向上にも繋がる。

方法

- ①省察（振り返り）⇒ ②記述 ⇒ ③記述内容の共有 ⇒ ④他者からのフィードバック
- あらかじめ指定したフォーマット（「学習した内容」「成果と課題」「今後の自身の目標」）または自由記述形式で、省察の内容を記述させ、教員あるいは学生同士等で共有し、フィードバックを行う
- 紙媒体だけでなくwebベース（Mahara）でも振り返りの共有を行う

！反転授業で授業時間を有効に活用する

利点 学生が事前学習をいつでも何回でも個人のペースに合わせて行うことができる。授業において、教員と学生が同一の場所にいることを活かしたアクティブ・ラーニング型の授業運営が可能になる。

方法

- 事前学習（教科書の解説等）× 対面授業（演習問題を解く、答え合わせ、発表等）
- 事前学習（知識の説明）× 対面授業（テーマに対するディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク）
- 事前学習（実験、実習、ワークの準備説明、知識の説明）× 対面授業（実験、実習、フィールドワーク）

◆徳島大学では、学生の能動的学習を促すために、「アクティブ・ラーニング」「ラーニング・ポートフォリオ」「反転授業」を、コースの中で1回でも実施することを推奨しています。

アクティブ・ラーニングに関する 自己診断チェックリスト

あなたは授業でアクティブ・ラーニングを実施していますか？

学生の主体的な学習を促進するという意図のもと、授業の中で1回でも下記の項目を計画し、実施している授業があれば、をしましょう。

一つでもできれば、アクティブ・ラーニングを実施していると言えます。

※以下の項目は、実際に徳島大学で行われている授業での実践事例から抽出しています。

課題演習

- 課題を解かせて提出させ、次週の授業で返却し解説を行っている
- 小テストを行い、答えを学生に発表させたり板書させたりした後で、解説を行っている
- 小テストの解答について、学生同士で確認させる時間を設けている

質疑応答

- 疑問をといかけ、学生の答えに応じた説明を行っている
- 学生に質問カードを書かせ、次週の授業で質問に答えている
- 簡単な実験を行った後で、実験の結果などについて学生に問いかけて答えを引き出しながら解説を行っている
- 基本的事項について説明を行い、鍵となる概念について学生同士のペアで教え合いをさせている

振り返り

- 学生に授業で学んだことを紙に書かせ、短いコメントやスタンプを付して返却している
- 授業で学んだ内容について、学生同士のペアで確認を行わせている

グループワーク

- あるテーマについて、学生がグループで話し合った内容をまとめる時間を設けている
- ある事例を学生に提示し、グループで問題点や解決策を考えさせたり発表させたりしている

ディスカッション

- 一つのテーマを与え、ペアまたはグループで話し合い（議論）をさせている
- 事前学習としてテーマに関連する自習をさせ、授業で話し合い（議論）をさせている

プレゼンテーション

- 事前に与えた一つのテーマについて、個人またはグループで3分程度の発表をさせている
- テーマを設定し、グループで話し合い（議論）をさせてから発表させている

※アクティブ・ラーニングの授業方法は、チェックリスト上のもの以外にも様々にあります。

「徳島大学のアクティブ・ラーニングの定義」を参照し、どのような方法があるか考えてみるのもよいでしょう。

徳島大学のアクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な知識伝達とは異なり、課題演習、質疑応答、振り返り、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れることにより、学生自らが考え抜くことを教員が促し、学生の能動的な学習を促進させる双方向の教授・学修のこと。

教養教育開設授業科目(『教養教育履修の手引き(2018(平成30)年度』より)

授業科目の区分		授業科目	授業題目
科目群	授業科目		
一般教養教育科目群	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	個々の授業題目	個々の授業題目
グローバル化教育科目群	グローバル化教育科目	個々の授業題目	個々の授業題目
イノベーション教育科目群	日本事情 (留学生対象)	日本事情 I～IV	個々の授業題目
基礎基礎教育科目群	イノベーション教育科目 高大接続科目 自然科学入門 基礎数学 基礎物理学 基礎物理学実験 基礎化学 基礎化学実験 基礎生物学 基礎生物学実験 基礎教育学 ウェルネス総合演習	個々の授業題目	個々の授業題目
汎用的技能教育科目群	SIH道場 情報科学 スタディスキル コミュニケーション	個々の授業題目	個々の授業題目
地域科学教育科目群	地域科学教育科目	個々の授業題目	個々の授業題目
医療基礎教育科目群	医療基礎教育科目	個々の授業題目	個々の授業題目
外国語教育科目群	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 日本語 (留学生対象)	基礎英語 主題別英語 発信型英語 ドイツ語入門 ドイツ語初級 フランス語入門 フランス語初級 中国語入門 中国語初級 日本語 I～8 コミュニケーション のための日本語 I～10	基礎英語 主題別英語 発信型英語 ドイツ語入門 ドイツ語初級 フランス語入門 フランス語初級 中国語入門 中国語初級 日本語 I～8 コミュニケーション のための日本語 I～10

SIH道場 ラーニングスキル<文章力>ルーブリック評価表

評価者 (評価する人) : _____ 制作者 (評価される人) : _____

課題
 (例) 先輩からのメッセージ「〇〇工学の最先端技術と徳島大学での学び」を聞いて、あなたが学んだこと、また〇〇学科における学習関する目標について、A4用紙1枚 (約1000文字) にまとめて下さい。

		尺度		
		(A) 期待以上です	(B) 期待通りです	(C) 努力が必要です
観点	①主張の根拠付け	主張が明確で、その根拠付けに説得力がある。	主張があまり明確でない。または、主張の根拠付けに不十分な点がある。	主張がない。または、主張の根拠付けがないか、不適切である。
	②構成の明快さ	段落や全体の構成が、内容や論理にしたがって明快になされている。	段落や全体の構成がある程度できているが、なお不十分な点がある。	段落や全体の構成に一貫性がなく、不明瞭である。
	③文章表現の適切さ	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現がほとんどない。	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現が1000字(A4で1枚)当たり5件未満である。ただし、同一の誤りが複数あっても1と数える。	誤字脱字、文法的誤り、誤解を招く表現、話し言葉など、不適切な文章表現が1000字(A4で1枚)当たり5件以上ある。ただし、同一の誤りが複数あっても1と数える。
	④出典表示など	参考文献・資料からの引用・要約の仕方が適切で、出典表示も明確になされている。	参考文献・資料の内容と自分の意見との区別や出典表示がなされているが、なお不十分な点がある。	参考文献・資料の内容と自分の意見との区別がなされていない。

SIH道場 ラーニングスキル<プレゼンテーション>カ>ルーブリック評価表

評価者 (評価する人) :

制作者 (評価される人) :

課題	<p>(例) 体験学習「大塚国際美術館見学」において学んだことや感じたことを整理し、3分間のプレゼンテーションを行って下さい。また、プレゼンテーションの際に聴衆に対して配布するための資料として、A4用紙1枚に発表内容をまとめて下さい。</p>
-----------	---

尺度				
	(A) 期待以上です	(B) 期待通りです	(C) 努力が必要です	
観点	①内容の構成	理由(根拠と論拠)と結論(主張)をわかりやすい順番で構成している。	理由と結論の順序については、意図をくみ取ることができているが、改善の余地がある。	理由と結論がわかりやすい順序で構成されていない。
	②姿勢	説明する内容を聞き手に理解してもらおうとする姿勢(発声、視線、表情、体の姿勢)がある。	説明する内容を聞き手に理解してもらおうとする姿勢が感じられるが、発声、視線、表情、体の姿勢のうち、不十分な点が1,2か所程度ある。	説明する内容を聞き手に理解してもらおう姿勢がなく、淡々と発表をこなしている。
	③視覚資料	必要な情報がすべて盛り込まれており、また無駄な情報がなく「見せる」視覚資料になっている。	必要な情報の一部が不足している、または無駄な情報があり「読ませる」視覚資料になっているところがある。	必要な情報が不足している、あるいは無駄な情報があり「読ませる」視覚資料になっている。

SIH道場 ラーニングスキル＜協働力＞ルーブリック評価表

評価者：

被評価者：

課題	(例) チーム医療の重要性について、シナリオをもとにグループで考え、見解をまとめて下さい。
-----------	---

		尺度		
		(A) 結構です	(B) まずまずです	(C) 努力しましょう
観点	①基本的なルール	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のすべてを守っている。	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のうち、1個または2個を守っている。	「ゴールの共有」、「時間の管理」、「役割の自覚」のすべてが守られていない。
	②話す・聞く	常に要点を明確にして話し、確認・要約をしながら聞いている。	要点を明確にして話し、確認・要約をしながら聞いている場面がある。	要点を明確にして話すこと、確認・要約をしながら聞くことを全くしていない。
	③アイデアの発想と収束	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階を明確に分けて課題に取り組んでいる。	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階を分けて課題に取り組んでいるが、区別が曖昧になっている。	アイデアの発想・共有と、収束・統合の二段階を全く意識していない。

英語外部試験を取り入れた大学の事例

山口大学・鹿児島大学

1

英語外部試験を取り入れた大学の事例

教養教育「英語」科目に外部試験を利用して、その成績に応じてクラス分けを実施している、[山口大学](#)と[鹿児島大学](#)の事例を紹介する。

2

テスト・英語教育の専門家チームが日本人大学生のために開発したシンプルで信頼性の高い英語力診断テスト。

◆ 「読む・書く・聴く・話す」の4技能を中心とした英語の総合力を身につける。

試験時間：70分／受験料：800円（税抜）／リスニング・リーディング 各60問／マークシート形式
 (『VELC Test』 <https://www.velctest.org/outline/> 検索日：2019/9/18)

◆ 入学直後のVELC (ベルク) テストにより、クラス分けを行い学生のレベルに応じた少人数制 (20~40名) の授業を実施。

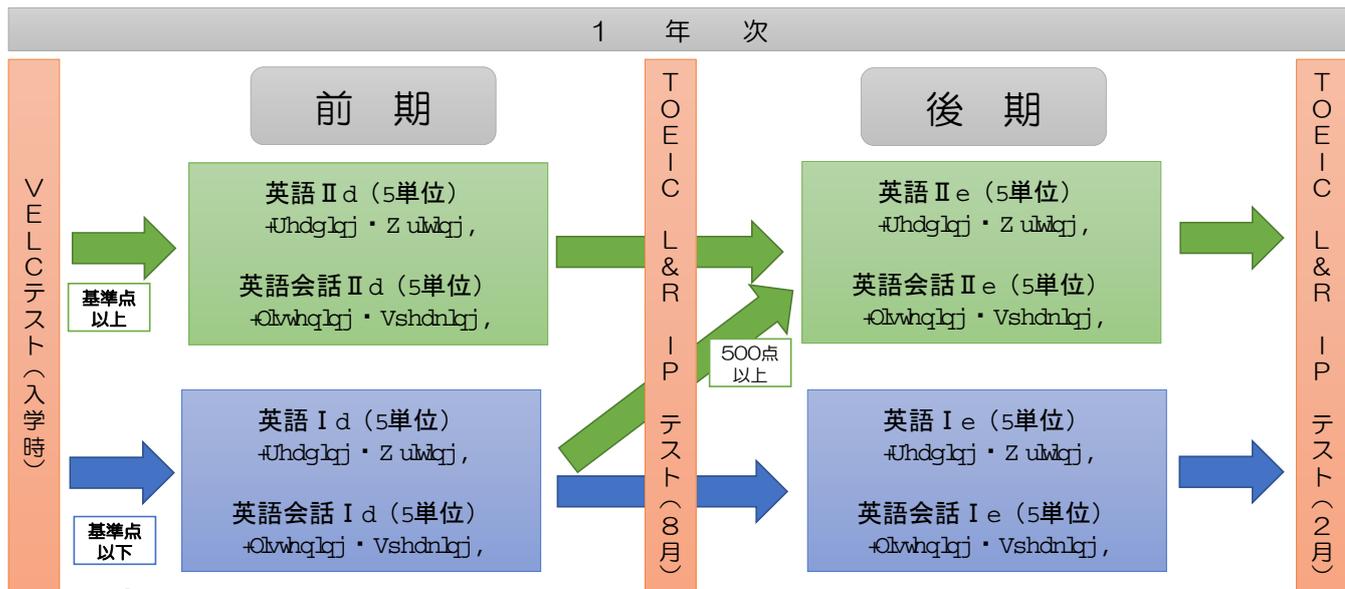
◆ 前期及び後期終了後にTOEIC-IPテストを受験。

◆ 学部・学科によっては、TOEICのスコアが卒業要件に課される。

◆ TOEICテスト等の受験料は、学生の自己負担。

(『山口大学：2019年度共通教育履修案内』 pp.24-26参照) ³

(1) 山口大学：単位修得の流れ



基準点は、学部・学科等の得点分布状況により異なる。

(『山口大学：2019年度共通教育履修案内』 p.24参照)

(2) 山口大学：学部別TOEIC スコアの卒業要件の基準点

所属学部・学科等		卒業要件	備考
人文学部		なし	
教育学部		なし	
経済学部		400	詳細は学部『履修の手引』参照
理学部	数理科学科	なし	
	物理情報科学科	なし	
	生物・化学科	350	
	地球圏システム科学科	350	4年次進級時に350点必要
医学部	医学科	500	4年次修了時まで500点必要
	保健学科	400	進級要件については学部『学生要覧』参照
工学部		350	4年次進級時に350点必要
農学部		なし	

学部・学科によっては、卒業要件として、**350～500点**のTOEICスコアを課している。

(『山口大学：2019年度共通教育履修案内』 p.26より)

(3) 山口大学：「英語la」シラバス例（一部抜粋）

英語la (2019年度：前期) 単位数：2単位

[概要] この授業では、英語の基礎的なリーディング能力とライティング能力を身につけます。

[到達目標] 日常的なトピックを扱った文章の要点や情報を理解し、感想や意見を書くことができる。

[授業計画] 1回1チャプターを原則として授業を進める。授業の流れは、①単語テスト、②トピックの導入とウォームアップ、③ディクテーション・シャドーイング、④本文に関する英問英答、⑤速読演習、⑥トピックに関する動画を視聴し英語で感想を書く。

[教科書] 『公式TOEIC Listening & Reading問題集4』は、事前に購入して、初回の授業に必ず持参してください。・・・

[成績評価法]

- ・定期試験の成績やパフォーマンス評価等並びにTOEICスコア及びE-learningの学習状況による加点により厳格に行われます。
- ・リーディングは授業の成績評価全体の7割、ライティングは授業の成績評価全体の3割を占めます。
- ・4回以上欠席した場合及び8月のTOEIC L&R IPテストを受験しなかった場合は、欠格となります（真にやむを得ない理由によりTOEICテストを受験できない場合は、事前に共通教育係に相談してください）。

(山口大学eYUSDL: <https://www.kyomu.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/portal/Public/Syllabus/>より) 6

- 成績評価は、定期試験の成績、パフォーマンス評価等、TOEICスコア、e-learningの学習状況による加点により厳格に行われる。
TOEIC のスコアが成績評価に組み込まれている。
- 原則として、8月と2月のTOEIC-IPテストを受験しなければ、英語科目の単位が保留のままとなる。

(『山口大学：2019年度共通教育履修案内』 p.24参照)

7

- ◆ 1年次から3年次にかけて、「英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ」の8科目を開講(学部・学科によって卒業要件単位が異なる)。
- ◆ 1年次から2年次に開講される科目(英語ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡB、Ⅲ、Ⅳ)は、習熟度別クラス(受講クラスは、1～2年次の前期と後期のそれぞれ開始前に発表される)。
ベネッセの英語4技能検定：「アカデミック」は大学生向け
(「GTEC」<https://www.benesse.co.jp/gtec/> 検索日：2019/9/18)
- ◆ 1年次に2回(前期・後期)にアチーブメントテストとして、GTEC Academic (ジーテック アカデミック)を実施。

(『鹿児島大学：2019年度共通教育履修案内』 pp.17-19参照) 8

(5a) 鹿児島大学：英語の学年別の科目と必修・選択

習熟度別クラス：「初級・中級・上級」
(2年生向けは一部で、英会話初級・中級・上級)

[3年次]

前期 後期
英語Ⅴ 英語Ⅵ

学部・学科選択

(英語Ⅴ・Ⅵ)
学術英語を中心に専門的学修への橋渡し

前期 後期
英語Ⅲ 英語Ⅳ

学部・学科選択

(英語Ⅲ・Ⅳ)
学部・学科選択で、応用、発展

[1年次]

前期 後期
英語ⅠA 英語ⅡA
英語ⅠB 英語ⅡB

全学部・学科必修

(英語ⅠA・ⅡA) いわゆる教養を念頭に置きながら、
主に読むこと、聞くことに焦点を当てた理解面の英語力の習得

(英語ⅠB・ⅡB) 一般的な学術に係る内容を吟味しながら主に書くこと・話すことに
焦点を当てた伝達面を活かしながら学ぶ

(『鹿児島大学：2019年度共通教育履修案内』 pp.17-19参照) 9

(5b) 鹿児島大学：英語の学年別の科目と卒業要件単位数

習熟度別クラス：「初級・中級・上級」
(2年生向けは一部で、英会話初級・中級・上級)

[3年次]

前期 後期
英語Ⅴ 英語Ⅵ

前期 後期
英語Ⅲ 英語Ⅳ

[1年次]

前期 後期
英語ⅠA 英語ⅡA
英語ⅠB 英語ⅡB

2年次以降（英語Ⅲ以上）
は、学部・学科によって卒業要件単位数が異なる。

法文（全学科）	2	2					4
理（物理化学）	2	2	1	1			6
農（農林環境）	2	2	1	1	1	1	8
学部（学科）	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	単位数	卒業要件単位数

(『鹿児島大学：2019年度共通教育履修案内』 pp.17-19参照)

(6) 鹿児島大学：「英語ⅠA」「英語Ⅲ」シラバス例（一部抜粋）

英語ⅠA（2019年度：1年次 前期） 単位数：1単位

[概要] ELAコースは、高校レベルから大学レベルの英語にむけた、スムーズな移行的役割をもつ。「大学ならではの英語」「大学生に必要な英語」としてとらえ、学習を通して教養を深め、人格形成に努めていく。・・・

[到達目標] ELA(English for Liberal Arts)コースでは、以下について到達できるようにする
[英語力](Reception - Interaction重視のスキル獲得)
<Reading> 1. 内容と論理の構成を理解し、大意把握ができ、論点の流れ（段落構成）が理解できる
・・・

[教科書] Reading Explorer 2 (2nd ed.). Cengage Learning

1年次は、成績評価全体の**20%**を**GTECのスコア**とする。

[成績評価法] **GTEC CTE Reading Part (20%)**
英語ⅠA (ELAⅠ)の授業 (80%)

*以下(1)-(4)を基準とする

(1) 中間テスト 25% (2) 期末テスト 25% (3) 授業中の課題 15% (4) 授業外の課題 15%

英語Ⅲ（2019年度：2年次 前期） 単位数：1単位

[概要] English speaking & reading activities.

[到達目標] 1. Students will be expected to practice and master various forms of English speaking and reading.

2年次以降の英語科目は、GTEC等外部試験は、成績評価に入れない。

[教科書] Xreading VL (xreading.com)

英語Ⅲの授業 (100%) *以下(1)-(4)を基準とする

1. Xreading: 30% 2. Speeches (x2): 20% 3. Conversations (x2): 15%
4. Poster presentations (x2): 20% 5. Final presentation: 15%

[成績評価法]

11

(鹿児島大学シラバス：https://sb06.kuas.kagoshima-u.ac.jp/ac_syllabus/freeより)

(7) 鹿児島大学：英語の授業科目の単位評価

- 1年次の前期・後期に受験するGTECの成績は、学期ごとの成績評価の **20%** に反映（残りの80%は、授業での試験等での評価）。
- 2年次以降（英語Ⅲ以降）は、GTEC等のスコアは、成績評価には反映されない。

（『鹿児島大学：2019年度共通教育履修案内』p.19参照）

TOEICを進級・卒業要件として活用している大学（「TOEICプログラム更新情報」2016年3月より）

国公立大学

大学（学部）	条件	点数
大阪大学（外国語学部）	3年次進級要件	TOEIC 730点（英語専攻）
山口大学（国際総合科学部）	卒業要件	TOEIC 730点
東京海洋大学（海洋学部）	3年→4年進級	TOEIC 600点
宮崎公立大学	教育実習履修要件	TOEIC 550点 TOEIC S&W 平均110点（ただしS90点以上かつW100点以上）
広島大学（大学院工学研究科）	2年終了時まで	TOEIC 500点
長崎大学（工学部工学科構造工学コース）	卒業までに	TOEIC 400点

（「TOEICプログラム更新情報」2016年3月4日一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985_14_1.pdf 参照）

13

TOEICを進級・卒業要件として活用している大学（「TOEICプログラム更新情報」2016年3月より）

私立大学

大学（学部）	条件	点数
京都産業大学（文化学部 京都文化英語コミュニケーションコース）	卒業要件	TOEIC 730点
龍谷大学（国際学部）	卒業要件	TOEIC 730点
武蔵野大学（グローバルコミュニケーション学科）	卒業要件	TOEIC 600点
神田外国語大学（国際コミュニケーション学科）	2年次に「英語資格特別演習」を履修し	TOEIC 600点
麗澤大学（外国語学部）	卒業要件	TOEIC 550点（英語コミュニケーション専攻） TOEIC 500点（英米文化専攻）
明海大学（ホスピタリティツーリズム学部）	1年→2年進級 2年→3年進級	TOEIC 500点 TOEIC 600点
拓殖大学（外国語学部・英米語学科）	2年次終了時まで	TOEIC 500点
宮崎国際大学	3・4年次科目の履修要件	TOEIC 450点

（「TOEICプログラム更新情報」2016年3月4日一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/117/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/24/1368985_14_1.pdf 参照）

14

VELC Testを習熟度別クラス編成・プレイスメントテストとして活用している大学

(「VELC Test」 <https://www.velctest.org/index.html> 検索日：2019/9/18)

大学（学部）	活用	受験者
弘前大学	(2018年度から) <ul style="list-style-type: none"> 1年次教養英語科目の習熟度別クラス編成 英語プレイスメントテスト 成績評価に一部組込む外部試験 	一年生全員（2018・2019年度）
福岡大学	(2013年度から) <ul style="list-style-type: none"> 2年次のクラス編成 	一年次・二年次の全学部生
北九州市立大学（国際環境工学部）	<ul style="list-style-type: none"> 1年次クラス編成用のプレイスメントテスト 	国際環境工学部の一年生全員
立命館大学（法学部）	(2014年度から) <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス編成の資料 (4月：受験) 1年次のクラス編成 (12月：受験) 2年次のクラス編成 	法学部の一年生全員
近畿大学（薬学部）	(2010-2016年度) <ul style="list-style-type: none"> 入学時のクラス分け 1-2年次の授業の定期試験 (2017年度から) <ul style="list-style-type: none"> 1-2年次の授業の定期試験（40%分） 	薬学部の学生
和洋女子大学	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別クラス編成 英語学習効果の確認 	一年生全員

(「VELC Test」 <https://www.velctest.org/index.html> 参照)

他大学に学ぶ取り組み事例

担当者：杉森 保、水谷秀樹

キャリア教育の事例

山形大学を中心に

山形大学

教養教育の構成

- 基盤共通教育科目
 - ・ 導入科目：スタートアップセミナーなど
 - ・ 基幹科目：「人間」「共生」「地域」がテーマ
 - ・ 教養科目：「文化と社会」「自然と科学」「応用と学際」
 - ・ 共通科目：コミュニケーションスキル、キャリア教育

「キャリアデザイン」

- 低学年からのキャリア教育の質向上を目指す
- 前／後期あわせた全科目の履修者数は約2000名（平成30年度）
 - 「共通科目」の選択科目

「キャリアデザイン」

- ◎ 科目の種類
 - 理論（前・後期各1コマ）
 - 自己理解（前期4コマ）
 - 社会理解（後期3コマ）
 - ライフスキル（後期1コマ）

自己理解（キャリアデザイン）

- ◎ ここでの「キャリア」は広い意味で仕事を通じた「人生」「生き方」そのものを扱う
 - ・ キャリアとはなにか（座学）
 - ・ コミュニケーショントレーニング（グループワーク 3回）
 - ・ 自分を知る（グループワーク 6回）

シラバスより

自己理解（キャリアデザイン）

- ◎ 工夫した点
 - ・ 仲の良い学生同士で固まらないように、また、性別や学部の違う学生同士の交流できるように、教員がランダムにグループ分け
 - ・ 前年履修した学生を AA（アドミニストレイティブアシスタント）として雇用し、授業補助を依頼

「共通科目「自己理解(キャリアデザイン)」の取組みについて」、
松坂暢浩(2019)、山形大学 高等教育研究年報。 より

自己理解（キャリアデザイン）

◎ 学生の感想

- ・ コミュニケーション能力については97.0%が向上したと回答（全くその通り、ややその通りの合計）
- ・ 私は人とコミュニケーションを取るのが苦手だったのですが、この授業を通して、人の話を聞く時の態度や、人に話をする時に気をつけることが分かり、前よりもコミュニケーションを取ることに苦手意識がなくなった

「共通科目「自己理解(キャリアデザイン)」の取組みについて」、
松坂暢浩(2019)、山形大学 高等教育研究年報。 より

自己理解（キャリアデザイン）

◎ 学生の感想

- ・ 大学生活の過ごし方を考えられるようになったかについては95.4%ができたと回答（全くその通り、ややその通りの合計）
- ・ 自分とはどういう人間なのかということを理解することができ、これからの大学生活に役立てることができた

「共通科目「自己理解(キャリアデザイン)」の取組みについて」、
松坂暢浩(2019)、山形大学 高等教育研究年報。 より

教養教育の構成

- ◎ 基盤共通教育科目
 - ・ 導入科目：スタートアップセミナーなど
 - ・ 基幹科目：「人間」「共生」「地域」がテーマ
 - ・ 教養科目：「文化と社会」「自然と科学」「応用と学際」
 - ・ 共通科目：コミュニケーションスキル、キャリア教育

フィールドワーク 山形の企業の魅力 (プレインターンシップ)

- ◎ 早期からの就業体験を通して、キャリア意識と学習意欲を高め、働くとは何かを考えることを目的とする。
- ◎ 次年次以降のインターンシップに向けた準備段階と位置付け、山形県内の中小企業（山形県中小企業家同友会加盟企業）および官公庁で3日間インターンシップのプレ体験を実施。
- ◎ 履歴書、志望理由書の作成、ビジネスマナーなどの座学のあと合計3日間のインターンシップ参加を実施し、成果報告会を開く。

フィールドワーク 山形の企業の魅力 (プレインターンシップ)

◎ 学生の感想

- ・ 今回のインターンシップでは、初めての経験ばかりで3日間毎日がとても新鮮で仕事の大変さや働くことのやりがいを知ることができ、自分に足りないことを見つけ、将来についてもっと考えていかなければならないと感ずることができました。

シラバスより

フィールドワーク 山形の企業の魅力 (プレインターンシップ)

◎ 学生の感想

- ・ インターンシップは受ける前は不安でいっぱいでも面倒くさいなと思うこともありましたが、実際に行くと面白かったし、中小企業の見方も変わりました。
- ・ 中小企業は明るく温かい雰囲気であるということを知りました。

シラバスより

キャリア教育の事例

○山形大学

○基盤共通教育科目の構成：<http://www.ias.yamagata-u.ac.jp/about/education/>



- ・ 導入科目：スタートアップセミナーを通じて大学での学びの基本を身につける
 - ・ プレゼン手法、レポート作成、調査・情報収集の方法
 - ・ 少人数グループワークを取り入れたきめ細かな指導
 - ・ 全学共通テキストで「大学に早く慣れる」ための授業
- ・ 基幹科目：「人間」と「共生」、「地域」をテーマに学問的志向性を育む
 - ・ 学問への問題意識の育成や動機付けを図る
 - ・ 人生を豊かに生きるための「人間を考える」
 - ・ 他者、自然、社会との関係を知る「共生を考える」
 - ・ 山形から世界を考える「山形から考える」
- ・ 教養科目：学問の多様性を知り、知識の幅を広げる
 - ・ 「文化と社会」「自然と科学」「応用と学際」
 - ・ 各自の学習意欲に応じて自由に科目を選択して学ぶ
- ・ 共通科目：学問の実践に役立つ知識や能力を修得する
 - ・ 「コミュニケーション・スキル」「情報科学」「健康・スポーツ」「サイエンス・スキル」「キャリア・デザイン」
 - ・ 4年間の学習の基礎となる「スキル」を修得する

○山形大学のキャリア教育科目の例

- ・ 共通科目：「キャリアデザイン」（選択科目）

基盤共通教育を通じて、低学年からのキャリア教育の質向上を目指す。（基盤共通教育キャリア系科目履修者は学生約2,000名（平成30年度前期・後期科目合計）

- ・ 「理論（キャリアデザイン）」（前・後期各1コマ開講）
- ・ 「自己理解（キャリアデザイン）」（前期4コマ開講）
- ・ 「社会理解（キャリアデザイン）」（後期3コマ開講）
- ・ 「ライフスキル（キャリアデザイン）」（後期1コマ開講）

☆「自己理解（キャリアデザイン）」の概要（参考資料1より抜粋）

- ・ 計9回程度のグループワークを含む。
- ・ 2017年度は4つのクラスを一人の教員で担当（前年履修学生を授業補助に雇用）

- ・ 基幹科目：「フィールドワーク 山形の企業の魅力（プレインターンシップ）（山形から考える）」
（基幹科目群「山形から考える」から一科目選択）

早期からの就業体験を通して、キャリア意識と学習意欲を高め、働くとは何かを考えることを目的としている。また次年次以降のインターンシップに向けた準備段階と位置付け、山形県内の中小企業（山形県中小企業家同友会加盟企業）および官公庁で3日間インターンシップのプレ体験を実施。（2017年度：1年生43人が参加）

※受入企業：山形県中小企業家同友会に加盟企業の内 25 社

※文部科学省 平成 30 年度「大学等におけるインターンシップ表彰」で最優秀賞を受賞

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/news/20181210internshipbest-practice/>

注：2019 年度科目名は「フィールドワーク 山形で働く魅力(プレインターンシップ)(山形から考える)」



☆概要（シラバスより抜粋）

- ・履歴書、志望理由書の作成、ビジネスマナーなどの座学のあと合計 3 日間のインターンシップ参加を実施し、成果報告会を開く。

参考資料：1)「共通科目「自己理解(キャリアデザイン)」の取組みについて」、松坂暢浩（2019）、山形大学高等教育研究年報。2)シラバス（添付）3)山形大学ウェブマガジン

(<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/hitotohito/support/20190815/>)



○首都大学東京

○教養教育科目の構成：<https://www.tmu.ac.jp/academics.html>

- ・基礎科目群：「基礎ゼミナール」、「言語科目」、「情報科目」、「キャリア教育科目」
- ・教養科目群
- ・基盤科目群



○首都大学東京のキャリア教育科目の例

・基礎科目群：キャリア教育科目（選択科目）

4 年間の学びを通じて、社会人・職業人としての基礎能力をもち、産業構造などの変化に対応できる柔軟な専門性と創造性を育てることを目指す。

- ・前期開講科目：「ボランティアとリーダーシップ」・「キャリア形成」・「国際交流概論」
- ・後期開講科目：「キャリア形成演習」・「学びのデザイン：理論と実践」

※履修は学部・コースによって違いがあり、法学部などは、教養科目群、基礎科目群の科目と合わせて履修（14 単位以上）させている。

・「現場体験型インターンシップ」（基礎科目群のキャリア教育科目（2単位）に含まれる）

2005年の開学時より、キャリア教育の体験型科目として、大学生活の早い時期に履修できる「現場体験型インターンシップ」を実施している。前期授業期間に事前学習（全3回）を行い、実習先の事前調査やグループワークに取り組んだうえで、夏季休業期間に5～10日間の現場実習を行う。

<https://www.tmu.ac.jp/academics/menu/internship.html>



【主な実習先】

東京都：総務局、主税局、オリンピックパラリンピック準備局、交通局、病院経営本部 他
特別区：港区、新宿区、目黒区 他
市：八王子市、武蔵野市、青梅市、調布市、町田市他
東京都の関係団体：東京都歴史文化財団、東京都交響楽団、東京都スポーツ文化事業団 他
企業、その他法人：東武鉄道、神奈川中央交通、サカイ引越センター、日本新聞協会 他

○大阪大学

・一例：オン・キャンパス・インターンシップ

参考：<https://www.cscd.osaka-u.ac.jp/co/2019/000673.php> および以下の画像

ホーム > スペシャル > 授業レポート

全学共通教育科目

授業レポート

春～夏学期「オン・キャンパス・インターンシップ：創造的空間を創造する」を開講しました

2019年4月19日(金) 投稿

春～夏学期「オン・キャンパス・インターンシップ：創造的空間を創造する」は、教育における産学共創プロジェクトの新しい試みとして、学部低学年生向けに開かれる授業です。

第一回目の授業は2019年4月18日に行われ、複数社から取材いただきました。（詳細は[こちら](#)をご覧ください）



本授業 春～夏学期は、学部2回生以上を対象に 株式会社オカムラ がファシリテーターとなり、「創造的空間を創造する～未来の『はたらく』を考える」というテーマで開講します。

(秋冬学期は、学部1回生以上を対象に 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 がファシリテーターとして開講します。)

教員から一方的に知識を提供するのではなく、「学生」「企業」「教員」の対話を重視したグループワーク演習形式での講義です。講義場所は、豊中キャンパスだけでなく、オカムラ関西支社内bee（大阪市北区）を予定しており、「企業体験（働くリアル）」を通じて学ぶ機会とします。



<p>自己理解(キャリアデザイン) Self-Understanding (Career Design) 担当教員：松坂 暢浩(MATSUZAKA Nobuhiro), 山本美奈子 (YAMAMOTO Minako) 担当教員の所属：学士課程基盤教育機構 開講学年：1年,2年,3年,4年 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義 開講対象： 科目区分：</p>
--

【授業の目的】
 <自分を知る時間 ~自分らしさを大切にしながら、将来について考える～>
 大学生生活を始めるにあたり、これからの目標や将来のキャリアについて考えたことはありますか？またやりたいことが見つからず、自分には何が向いているのか分からず迷うこともあるかと思えます。その時に、自分のことをどれくらい理解できているかが重要になります。そこで本授業では「自己理解」をキーワードに、肯定的に自己を捉えた上で自分らしさについて理解を深めることを目的とします。また社会で求められる能力として挙げられる「コミュニケーションスキル」を高める取り組みも併せて行っていきます。
 ※ここで扱う「キャリア」とは、広い意味で仕事を通じた「人生」「生き方」そのものを扱います。

【授業の到達目標】
 授業で深めた自己理解の内容を踏まえて、自分らしさを自分の言葉で表現できる。

【授業概要 (キーワード)】
 学生主体型授業 (アクティブラーニング) ▽▼△、キャリア、キャリアデザイン、自己理解、コミュニケーションスキル

【科目の位置付け】
 本授業は、個々人のキャリアについて考えることで、社会を構成し運営する自立した人間として、人生をどう生きるべきか。より良く、より力強く生きようとする力である「人間力」を育成するものです。(山形大学基盤教育の基本方針より)

【授業計画】
 ・**授業の方法**
 大きく4つのステップで毎回の授業を進めます。
 ステップ1「振り返る」(前回の授業の振り返り)→ステップ2「考える」(各

回のテーマに沿って個人ワーク)→ステップ3「分かち合う」(ペア・グループでの共有)→ステップ4「振り返る」(授業のまとめと振り返り)

・**日程**

- 第1回 オリエンテーション (概要と進め方の説明)
 - 第2回 キャリアとは何か？ (キャリアおよびキャリアデザインとは何かについて解説)
 - 第3～5回 コミュニケーショントレーニング (聴く、話す上での基本を身に付ける)
 - 第6回 中間の振り返り (これまでの復習)
 - 第7～12回 自分を知る (自分の持ち味、価値観、適性等について考える)
 - 第13回 中間の振り返り (これまでの復習)
 - 第14回 キャリアデザインガイダンス (キャリア教育担当教員によるオムニバス講義)
 - 第15回 まとめ (授業全体を振り返り)
- ※履修者との話し合いにより、授業内容、開催回数を変更する場合があります。

【学習の方法】

・**受講のあり方**

本授業は、座学中心ではなく個人ワークとペア・グループワークが中心になります。はじめは慣れないと思いますが、励まし合い、助け合いながら一緒に取り組んでいきます。また社会人として最低限必要なマナーを身につけることも目標としていますので、参加にあたってのルールを設定します。

・**授業時間外学習へのアドバイス**

- 1) 個別のメッセージのやり取り、振り返りシート、レポート課題の提出にウエブクラスを使用します。登録に関しては授業内で指示します。
- 2) 授業後にウエブクラスから提出してもらう「振り返りシート」を使用し、授業の振り返り、学びをこれからの大学生活の中でどのように活かしていくかを考えてもらいます。それらを授業外で取組んでください。

【成績の評価】

・**基準**

振り返りシート、課題レポート、到達目標の達成度を踏まえて総合的に評価します。

・**方法**

- 1) 毎回授業終了後に提出する「振り返りシート」 (50%)
- 2) 課題レポート (10%)
- 3) 到達目標達成度チェック (40%)

【テキスト・参考書】

テキストは使用しません。授業で使用する資料は、適宜、ウェブクラスにアップします。また本学で作成している「キャリアハンドブック」をよく読んでおいてください。

【その他】

・学生へのメッセージ

1) 本授業は月曜日9・10コマ、火曜日5・6、7・8コマ、水曜日1・2コマに同じ内容で4つ開講します。都合の良い日程で履修してください。

2) ペア・グループワークが中心になりますので、無断欠席をしないようにしてください。

3) 昨年の履修した先輩の声（アンケートの感想から一部抜粋）

「入学当初は一人も友人がいなかったためとても不安でしたが、この授業で友人が増えたこともあり、今はその不安をほとんど解消することができました。」

「受講するきっかけは先輩から勧められたという理由でしたが、自分らしさやコミュニケーションについて一人では分からなかったであろうことを知ることができて、今では受講して本当に良かったと思っています。」

「今までは、自分の良いところなんてないと悲観的に考えることのほうが多かったけれど、相手の長所を見つけて褒めたり、相手に褒められたりすることで、なんとなく物事を前向きに考えられるようになった気がします。」

「グループワークは初め嫌だったものの、講義で様々なスキルを教えてくれたので、だんだんとグループのメンバーとも仲良くなれるだけでなく、ワークの進め方も上手くなることができました。」

「専門分野以外で大学生が学ぶべきことはこういう授業なのではないかと感じました。」

「授業を受けて、自己肯定感を高められ、少しではあります自信が持てるようになりました。」

「私はこの講義を受けて、確実に変わることが出来ました。生きていくうえでのスキルを身につけられたし、大学を良いところだと思っただけになりました。」

・オフィス・アワー

オフィス・アワーは、木曜日の午前中に小白川キャリアサポートセンター（基盤教育1号館1階）において対応します（授業や会議および出張等で不在以外）。面談を希望する場合は、事前にウェブクラスのメッセージから問い合わせください。

g84601001-2019-G1-78359

シラバス照会

<< 最終更新日：2019年03月20日 >>

基本情報

科目種別	キャリア教育	授業番号	Z0053
学期	前期	曜日	木
科目	キャリア形成	時限	2限
担当教員	林 祐司		

科目ナンバリング GAG-101-1：全学共通科目

※2018年度以降入学生対象

担当教員一覧

教員	所属
林 祐司	大学教育センター

詳細情報

学生の多くは大学を卒業したあと就職して仕事をすることになる。この授業では、日本の雇用・労働システムについて、大学を出たあとの職業生活やキャリア形成を考えると、学生にとっては将来の職業生活を構想するに際して有用である。

1.日本の雇用・労働システムについて既存研究の成果にもとづいた基礎的な知識を習得することができる。この知識は社会人としての幅広い教養に位置づけられるとともに、学生にとっては将来の職業生活を構想するに際して有用である。

2.この授業では、新聞や雑誌に掲載された記事や事例について、1で得た基礎的な知識を活用して授業中に学生自身で考察する。これにより学生は学習した知識がどのように活用できるかが分かることに加え、論理的に課題を捉え考える能力を培うことができる。

<授業計画・内容>

1. オリエンテーション
2. 学校から仕事の世界へ
3. 大学からみた企業の採用活動
4. 新人の仕事の社会への適応
5. 企業内でのキャリア形成
6. 職業別労働市場でのキャリア形成
7. 失業・解雇・退職

授業計画・内容
授業方法

8. 賃金
9. キャリアアアンカー
10. 生活時間配分とワークライフバランス
11. 働き方の典型性と雇用形態の多様化
12. レポート課題の提示と文献探索の練習
13. 性別職域分離
14. 定年退職と仕事の世界からの引退
15. 試験とまとめ

<授業方法>

各トピックに関する講義を授業の前半で行った後、講義内容をもとに課題記事の内容について考える。

授業時間前に指定した課題記事を読み、内容を整理してKibacoに記入する。
また授業時間終了後に課題記事について講義内容をもとに考察したことをKibacoに記入する。

教科書は特に指定しないが参考書をあけておく（刊行年順）。

- ・稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2010）『キャリアで語る経営組織—個人の論理と組織の論理』有斐閣。
- ・佐藤博樹・佐藤厚編（2012）『仕事の社会学—変貌する働き方（改訂版）』有斐閣。
- ・阿部正浩・松繁寿和編（2014）『キャリアのみかた—図で見える110のポイント（改訂版）』有斐閣。
- ・小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充（2015）『産業・労働社会学—「働くこと」を社会学する』有斐閣。

筆記試験またはレポート試験（100%）

※ただし、試験の受験資格は欠席回数が3回以下の学生に付与する。

※いずれの方法を用いて成績を評価するかは採点にかかる労力と採点期間との兼ね合いから履修者数に応じて変更する。

オフィスアワーは本曜5限とします（資料の用意や他の人との重複の回避のためアポイントメントを取ってください）

特別な予備知識は必要としないので、専門を問わず興味があれば受講してください。

閉じる

備考

特記事項
(他の授業科目との関連性)

シラバス照会

<< 最終更新日：2019年03月20日 >>

基本情報

科目種別	キャリア教育	授業番号	Z0051
学期	集中	曜日	他
科目	現場体験型インターンシップ	時限	0限
担当教員	林 祐司	単位数	2

科目ナンバリング GAG-103-1：全学共通科目

※2018年度以降入学生対象

担当教員一覧

教員	所属
各教員	
林 祐司	大学教育センター
	大学教育センター

詳細情報

授業方針・テーマ

大学生活の早い時期に、さまざまな課題を抱える大都市東京での現場体験を通じて、課題に取り組む能力等を自ら養成することを旨とする。

習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標

- 自分自身及び社会の課題について認識することができる。
- 責任感を持って課題に主体的に取り組むことができる。
- 社会人として多様な関係者と適切にコミュニケーションをとることができるとができる。

事前学習、職場実習、実習録・成果報告書の提出を行う（すべて必須）。このほかにマナー講座、ふりかえり会（成果報告）を行う。

- 事前学習
（前期授業期間中の5時限または6時限のうち、指定された全3回。※下記特記事項（2）参照）
 - 職場実習（夏季休業期間中の実日数5日間以上10日間以内）
- 企業、東京都、関係団体、区及び市での現場体験

（2）マナー講座（前期授業期間中の5時限または6時限。※下記特記事項（3）参照）

実習におけるビジネスマナーの講義及び演習

- 職場実習（夏季休業期間中の実日数5日間以上10日間以内）

【実習例】

製品開発・品質管理等、製造業における業務体験、客室清掃、フロント等ホテルにおける業務体験、融資・預金業務等の金融業務体験、物流

授業計画・内容
授業方法

（障工・障上）・福祉に関する奉仕体験、献花・献収・献物・広報・広報・広報事務等
都税事務所における日常業務の体験、利用者支援・介護補助業務等・老人福祉施設における体験、カルテ管理・病床管理・物品購入・外来患者案内等の病院における業務体験、イベント開催準備・PR・実施等文
化施設における業務体験、上下水道・高速度路等の都市インフラ維持管理に関する業務体験、特別支援学校における児童生徒の介助補助等の体験、図書館の貸出・返却・納本等図書館における業務体験、保育園・児童館施設における保育・児童育成業務等の体験、ごみ及び資源物の収集や処理・リサイクルセンター業務・不法投棄対応等の体験、公園の維持管理・来園者対応業務等公園・体育施設における業務体験

（4）実習録・成果報告書の提出

実習終了後、夏季休業期間中の指定された日までに提出

（5）ふりかえり会（成果報告）（10月中旬以降の開催。※下記特記事項（3）参照）

実習先アンケート結果・成果報告及びグループワーク

第2回で行うグループワークのために実習先に関する調査を授業時間外に行う必要がある。また、実習終了後に成果報告書を作成する必要がある。

テキスト及び実習録を配布する。参考資料は適宜配布する。

成績評価は合否による。事前学習、職場実習の全ての出席及び実習録・成果報告書の提出を要す。合否は、実習録や成果報告書の提出物に対する評価、ならびに実習に取り組む姿勢や成果に関する実習先からの評価所見により、各学部の担当教員が総合的に判定する。

質問受付方法は、様々な機会を用意している。授業中に指示をするので積極的に活用すること。

（1）この科目の運営・管理・評価は現場体験型インターンシップ部会が行う。

（2）事前学習の指定日が他の授業科目と重複した場合には、あらかじめ申し出の上、別に設定する日程に変更することができる。

（3）マナー講座及び成果報告会は、必須ではないが、受講することが望ましい。（マナー講座については、一部受講推奨及び必須の実習先あり。）

（4）履修者は、定期健康診断を必ず受診すること。

（5）履修者は、傷害保険及び賠償責任保険に必ず加入すること。

（6）実習に要する交通費等の実費は、自己負担とする。

（7）この科目の履修、実習等の窓口は学生サポーターセンターキャリア支援課（7号館1階）が担当する。

（8）この科目に関する連絡は、kibaco、現場体験型インターンシップWebサイト、電子メール等により行う。

（現場体験型インターンシップWebサイト

<http://www.gs.tmu.ac.jp/career/internship/>

授業外学習

テキスト・参考書等

成績評価方法

質問受付方法
（オフィスアワー等）

特記事項

（他の授業科目との関連性）

備考

閉じる

<<最終更新日：2019年04月27日>>

基本情報

時間割コード／Course Code	137789
開講区分(開講学期)／Semester	春～夏学期
曜日・時間／Day and Period	木5
開講科目名／Course Name (Japanese)	オン・キャンパス・インターンシップ：創造的空間を創造する
開講科目名(英)／Course Name	On Campus Internship: Creative Space Design
ナンバリング／Course Numbering Code	13LASC1V700
単位数／Credits	2.0
年次／Student Year	2,3,4,5,6年
担当教員／Instructor	森栗 茂一,松繁 寿和,イステッキ・ジハンギル,松浦 博一

基本項目

サブタイトル／Subtitle	
セミナー番号／Seminar Number	
履修対象／Eligibility	全学部
履修その他／Other	
開講時期／Schedule	
セメスター／Semester	春～夏（2年次）
講義室／Room	

詳細情報

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c79A48DF9-8FB4-F96E-0966-789DBF5F8221_k0FC279D6-59A2-24EB-9171-B061613B4FA7

1 / 7 ページ

シラバス参照（外部公開） [CampusSquare]

2019/08/30 15:02

講義題目／Course Name	未来の「はたらく」を考える
開講言語／Language of the Course	日本語
授業形態／Type of Class	演習科目
授業の目的と概要／Course Objective	<p>社会が大きく変化している中、未来はどうなっていると思いますか。どうなっていて欲しいですか？学ぶ→働くと一直線だった時代から、学ぶこと、働くこと、暮らすことはまじりあい、働いたり学んだりを行き来しながら生きていく時代になりつつあります。</p> <p>世界も同時に大きく変化している中、グローバルにもの考えること、世界との関わりをどう築いていくか、広い視野でとらえ、多様な立場の人たちと理解し合うことが求められます。そんな時代の中ではきっと学ぶ力がすごく大事になります。</p> <p>学びの時期に今ちょうどいるみなさんに、働くことを考える機会を持ってもらうことで、これからの学びを自律的なものとし、未来に繋がる学びの機会にしてほしいと思っています。</p> <p>15回の講義を通して短期のインターンシップでは経験できない、企業体験を実践する学びの機会とします。</p> <p>これからの大学での学びを自律的なものとし、未来志向を身につけ、社会に実践していく力の醸成を目標とします。</p> <p>教員からの一方向の学びではなく、教員と企業人、学生同士の対話を重視し、新しい視点を得ること、見方を変えた思考が出来ること、異なる立場での対話をグループワークを通して行っていきます。</p> <p>授業は4つの要素で構成されてます。</p> <p>1.ATTRACT(動機付け) 身近な興味・関心から始め問題提起</p> <p>2.LECTURE(レクチャ) 未来・社会にその関心を広げていける講義</p> <p>3. WORK(実践・発表) 新しく得た知見から試行錯誤し形にしてみる</p> <p>4. FEED BACK(フィードバック)</p>

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowExecutionKey=_c79A48DF9-8FB4-F96E-0966-789DBF5F8221_k0FC279D6-59A2-24EB-9171-B061613B4FA7

2 / 7 ページ

学習目標／Learning Goals

履修条件・受講条件／Requirement / Prerequisite

互いのアイデアを共有し様々な立場からの指摘・見方を学ぶ

- ・自分なりの視点をもって社会を観察できる力を身につける。
- ・様々な立場の人との対話を通して新しい価値や課題を発見できるようになる。
- ・これからのキャリアについて考え自律的な学びの力を体得していく。

第1回 イントロダクション・オリエンテーション 4/18(木) 5限 豊中キャンパス サイエンス・スタジオA

第2,3,4回 「はたらく」イメージ 4/27(土) 2,3,4限 オカムラ関西支社Bee

第5,6,7回 はたらく場所 5/25(土) 2,3,4限 オカムラ関西支社Bee

第8,9,10 空間の力 6/22(土) 2,3,4限 オカムラ関西支社Bee

第11,12,13回 どんなはたらき方をしたい 7/20(土) 2,3,4限 オカムラ関西支社Bee

第14,15回 最終プレゼンテーション 8/09(金) 3,4限 オカムラ関西支社Bee

題目:イントロダクション・オリエンテーション

第1回

題目:「はたらく」イメージ

参考文献:自分の仕事をつくる/西村佳哲/筑摩書房

・はたらくってどういうこと?・ATTRACT・・WORK・

みなさんはまだ働いたことがほとんどないと思いますが、働くことにどのようなイメージを持っているでしょうか?ディスカッションをしながらみなさんの働くイメージを掴んでいきます。

・多様なはたらき方・`WORK MILL`を題材に・・LECTURE・

WORK MILLは「働く環境を変え、働き方を変え、生き方を変える。」よりよい働き方をひきだすオカムラの取り組みです。http://workmill.jp/

第2回

この活動を通して触れた多くの「はたらく人」の姿を題材に、みなさんの働く人のイメージ像をふくらませていきます。

・働くにまつわる意識調査・文化や世代による就労観・LECTURE・

時代の変化と共に働くイメージも変わってきました。就労観についての経年変化や、文化や世代による違いについて考察していきます。

・私たちの「はたらく」イメージ・WORK・・FEED BACK・

前半の講義を受けて、自分たちの働くイメージはどのように変化したか、グループワークを通して意見をまとめ、発表してもらいます。それぞれのグループがどんな着眼点を持って、何を重視してまとめたか、働くことへの多様な価値観が見つけられるでしょうか。

題目:「はたらく」イメージ

第3回

題目:「はたらく」イメージ

第4回

題目:働く場所

参考文献:「はたらく」の未来予想図/鯨井康志/白揚社

・「はたらく」を考えるビジネス誌 WORK MILL 1号(受講生に配布予定です)を読んで・ATTRACT・・WORK・

自分が気になった記事やトピックスについて発表。イステッキ先生のお話を何う予習も兼ねて世界の動向について学びます。

第5回

・融合する空間・LECTURE・・WORK・・FEED BACK・

イステッキ先生の欧州コワーキング・コラーニング視察報告レクチャ

・「海外のはたらく」を探る・LECTURE・・WORK・

ワークスタイルやオフィス空間は国や文化によって大きく異なります。例えばシリコンバレーと北欧では働き方もオフィスに対する考え方も全く異なっています。それらの背景も探りつつ多様なワークスタイルについて考察していきます。

授業計画／Class Plan

第6回 題目:働く場所

第7回 題目:働く場所

題目:空間の力

参考文献:誰のためのデザイン/D.A.ノーマン/新曜社

- ・自分の好きな場所・ATTRACT・・WORK・
キャンパスの中でも、自分の住む街でも、自分が好きな場所はどんな場所ですか？
みんなが好きだと思う空間にはどんな特徴があるでしょう。
- ・実際に働いている現場をみてる(関西支社見学)・WORK・
関西支社のライブオフィスを見学します。オフィスで働いている様子を見るのはおそらく初めてだと思うので、どのような感想を持ったか、率直な意見を聞かせてください。
- ・「はたらき心地」のよいオフィス・LECTURE・
いまオフィスづくりの中では「はたらき心地」という言葉がキーワードになっています。はたらき心地がよいオフィスとはどのような空間なのか、どうしてはたらき心地が注目されているのか考察していきます。
- ・「まなび心地のよい空間」を考えてみよう・WORK・・FEED BACK・
みなさんにとって、まなび心地がよい空間とはどのような空間なのでしょう？
色々な視点からどんな要素がまなび心地には大事なのか追究してみましょう。

第8回 題目:空間の力

第9回 題目:空間の力

第10回 題目:空間の力

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowExecutionKey=_c79A48DF9-8FB4-F96E-0966-789DBF5F8221_k0FC279D6-59A2-24EB-9171-B061613B4FA7

5 / 7 ページ

シラバス参照 (外部公開) [CampusSquare]

2019/08/30 15:02

回

題目:未来の「はたらく」

参考文献:LIFE SHIFT/リンダ・グラットン/東洋経済新報社

- ・あなたにとって大学はどんな存在?・ATTRACT・・WORK・
学ぶ場であることはもちろん、友人との場であったり、ゼミやサークルなど自分が企画して実践する場であったり、大学の過ごし方もそれぞれだと思います。自分が大事にしている・していきたいと思っている大学の役割について教えてください。
- ・オフィス空間をどうみるか・LECTURE・
大学という場所がみなさんにとって様々であるように、オフィス空間の捉え方も様々です。多様なオフィスの事例から、そのオフィスでは何が大事にされているのか考察していきます。
- ・最終プレゼンテーションに向けて・WORK・・FEED BACK・
これから自分が働いていく時に、大事にしたいことはどんなことでしょうか？
働くことにまつわる動向についてレクチャを行います。
それらを踏まえ、自分なりに、働くにまつわる動向について気になるテーマをみつけてリサーチを行ってみてください。その視点を交えて「どんな働き方をしたいか・どんな場所で働きたいか」について最終回で発表してもらいます。

第11回 題目:未来の「はたらく」

第12回 題目:未来の「はたらく」

第13回 題目:最終プレゼンテーション

第14回

- ・どんな働き方をしたいか？
- ・どんな場所で働きたいか？

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowExecutionKey=_c79A48DF9-8FB4-F96E-0966-789DBF5F8221_k0FC279D6-59A2-24EB-9171-B061613B4FA7

6 / 7 ページ

第15 題目:最終プレゼンテーション
回

授業外における学習/Independent Study Outside of Class

教科書・教材/Textbooks

参考文献/Reference

成績評価/Grading Policy

コメント/Other Remarks

特記事項/Special Note

受講生へのメッセージ/Messages to Prospective Students

実務経験のある教員による授業科目/*

課題についての予習・復習に加え、グループ学習の準備やプレゼンテーションの準備が求められます。

特に指定しません。必要な資料は授業で配布されます。

自分の仕事をつくる/西村佳哲/筑摩書房

誰のためのデザイン/D.A.ノーマン/新曜社

「はたらく」の未来予想図/鯨井康志/白揚社

LIFE SHIFT/リンダ・グラットン/東洋経済新報社

[評価ポイント]

議論への参加・取組姿勢、グループワークでの貢献、授業課題とプレゼンテーションのレベル、および、それらの成長度

[評価の割合]

グループ・授業への貢献 60%、授業課題 20%、課題解決の内容とプレゼンテーション 20%

定員25名

学生への注意書き

他大学に学ぶ取り組み事例

担当者：杉森 保、福田 翔

地域に出て学ぶ事例

山形大学・島根大学の事例

山形大学

教養教育の構成

- 基盤共通教育科目
 - ・ 導入科目：スタートアップセミナーなど
 - ・ 基幹科目：「人間」「共生」「地域」がテーマ
 - ・ 教養科目：「文化と社会」「自然と科学」「応用と学際」
 - ・ 共通科目：コミュニケーションスキル、キャリア教育

「山形から考える」

- 他県出身者が山形に興味を持つきっかけに。
- 県内出身者は新たな魅力に出会い故郷の素晴らしさを再発見する機会に。
 - 「基幹科目」の選択必修

「山形から考える」から一科目選択

基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019 より

「山形から考える」

個別科目例

- ◎ フィールドワーク城下町
 - 基礎的な講義の後、山形市の城下町に関するフィールドワークの計画をたてて実施し、結果をまとめて発表を行う

基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019 より

「山形から考える」

個別科目例

- 地域のにぎわいづくり体験（後期集中）
 - ・ 干柿まつり（11月）、柏倉ぼんぼりまつり（1月）に参加する。夏のイベント、冬の備え、地域の除雪などに関わる。

基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019 より

「山形から考える」

個別科目例

- 雪とともに生きる体験（後期集中）
 - ・ 8月、11月、1月の三回、一部宿泊ありで計5日間豪雪地を訪れ、夏のイベント、冬の備え、地域の除雪などに関わる。

基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019 より

「山形から考える」

一年次生アンケート

表 1-1-7 「山形から考える」の授業を履修して山形県への理解や関心が深まりましたか？

所属学部 回答内容	人文社会 科学部	地域教育 文化学部	理学部	医学部	工学部	農学部	合計	構成比
1. 非常に深まった	44	22	13	29	84	28	220	14.6%
2. 深まった	132	69	92	64	266	77	700	46.4%
3. どちらとも言えない	63	47	50	31	164	27	382	25.3%
4. あまり深まらなかった	28	18	20	21	44	7	138	9.1%
5. 全く深まらなかった	11	6	20	5	21	7	70	4.6%
合計	278	162	195	150	579	146	1,510	100.0%
平均値	3.61	3.51	3.30	3.61	3.60	3.77	3.57	
(参考) H29 平均値	3.50	3.60	3.26	3.55	3.42	3.60	3.46	

「平成30年度山形大学基盤共通教育評価改善報告書」より

「山形から考える」

四年次生アンケート

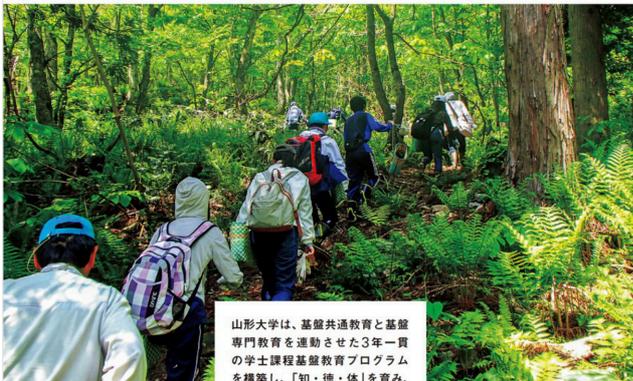
表 1-2-9 「山形に学ぶ」は山形をはじめとする地域社会の問題についての知識・関心を深める上で役立ちましたか？
平成30年度

回答内容	所属学部	人文 学部	地域教育 文化学部	理 学部	医 学部	工 学部	農 学部	合計	構成比
5. 役立った		35	25	24	12	27	8	131	21.9%
4. どちらかと言えば役立った		53	57	36	19	51	15	231	38.7%
3. どちらとも言えない		15	24	17	27	65	4	152	25.5%
2. どちらかと言えば役立たなかった		3	9	5	5	21	1	44	7.4%
1. 役立たなかった		5	4	3	8	19	0	39	6.5%
合計		111	119	85	71	183	28	597	100.0%

「平成30年度山形大学基盤共通教育評価改善報告書」より

基盤共通教育

基盤共通教育はさまざまな科目が用意され、全学部生(主に1年次)を対象に学ぶことができます。



山形大学は、基盤共通教育と基盤専門教育を連動させた3年一貫の学士課程基盤教育プログラムを構築し、「知・徳・体」を育み、学生一人ひとりが自立した一人の人間として、力強く生き、他者を理解し、共に社会を構成していく人間力を養います。



3つの基盤力を育成。他では学べない充実したプログラム。



山形大学の3年一貫学士課程基盤教育の共通教育プログラムは、3つの基盤力「学問基盤力、実践・地域基盤力、国際基盤力」を育成します。また、基盤力テストを実施することにより、学生の到達・達成度を可視化し、学生自身が自らの学びを振り返ることのできる自己学修力を育みます。

3つの基盤力

自律的に課題に取り組む専門力

学問基盤力

- 専門知識の体系的習得と実践的な運用体験
- 総合大学の学際性の強みを活かした応用力の獲得

地域社会でリーダーシップを発揮する人間力

実践・地域基盤力

- 能動的学習、自己理解・社会理解のための教育、就業体験型授業などによる課題解決・実践力の育成
- 地域課題に挑戦し生涯学び続ける自己学修力獲得

実践的な英語で多様性に挑戦する国際力

国際基盤力

- 語学資格試験(TOEIC等)の導入と4技能(読む、書く、聞く、話す)の英語実践力の修得
- 英語による課題解決型学習(PBL)の活動状況の把握化、留学内容の評価

Yamagata University 29

山形大学 大学案内 2019 より

島根大学

低学年次学生対象の体験学修

教養育成科目

発展科目 (自然科学分野)

発展科目 (学際分野)

発展科目 (学際分野)

発展科目 (学際分野)

社会人力養成科目

社会人力養成科目

社会人力養成科目

社会人力養成科目

社会人力養成科目

社会人力養成科目

山陰地域の自然災害

中山間地域フィールド演習

フィールドで学ぶ斐伊川百科

島大ミュージアム学

地域社会の生活と安全

ジャーナリズムと地域社会

島根の企業と経済

ボランティアと障がい者支援

ビジネススキル入門

地域社会と法II：実践編

島根大学WEB Pageより

低学年次学生対象の体験学修

教養育成科目

発展科目（自然科学分野） 山陰地域の自然災害

1. ガイダンス, 山陰地域の主な自然災害 汪 発武(総合理工)
2. 大雨災害の発生とその背景 田坂郁夫(嘱託講師)
3. 水文学からみる洪水災害 増本清(総合理工)
4. 浜田地震と昭和南海地震 林広樹(総合理工)
5. 山陰に押し寄せた津波の痕跡を探る 酒井哲弥(総合理工)
6. 山陰地域の軟弱地盤災害 志比利秀(総合理工)
7. 山陰地域の斜面災害 汪発武(総合理工)
8. 災害対策とその工法 藤井俊逸(嘱託講師)
9. 災害に立ち向かう法制度と被害者救済 永松正則 (法文)
- 10-13. 巡検授業
14. まとめ 汪 発武(総合理工)

シラバスより

地域に出て学ぶ事例

○山形大学

- ・基幹科目群：「山形から考える」（2単位必修）前期 27 コマ、後期 18 コマ開講

“「山形から考える」の各授業では、学問としての知識や技術に加えて、山形各地の魅力に出会えます。他県出身の学生が山形に興味を持ち、4年間を通じて自ら探求するきっかけを見つけてくれることを期待しています。また、県内出身者にとっても、新たな山形の魅力に出会うことで故郷の素晴らしさを改めて感じる機会になることと思います。”（基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019 より抜粋）

<http://www.ias.yamagata-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/03/fc75cfc459b9a7ccbf486eae195bb4dd.pdf>



科目の例と概要：

「フィールドワーク城下町」（前期・火曜）これから大学生活を過ごす地域の魅力を みずから発見し、歴史的な、文化的な物の見方、文化財や景観から情報を取得し調査する方法、比較方法を身につける。

「雪とともに生きる体験」（後期・集中講義）豪雪地である尾花沢市・市野々地区の地域活動に季節を通じて参加し、雪との生活の実態とそこから生まれた知恵、文化、共助の精神を学ぶ。8月、11月、1月に地域の行事に参加する。1月は豪雪地帯の高齢者宅の除雪などを行う。

「地域のにぎわいづくり体験」（後期・集中講義）山形市・柏倉地区の地域イベントの運営に参加し、地域資源を活用した活性化を学びながら、地域の魅力にふれる。事前準備を経て11月と1月に地域の祭りに合計5日間参加し、成果発表会を開催する。

参考資料：

- ・「基幹科目「山形から考える」ハンドブック 2019」抜粋（添付）
- ・シラバス（添付）

○島根大学

・低学年次学生対象の体験学修

https://www.shimane-u.ac.jp/education/school_info/edu_programs/edu_program06/



共通教養科目（全学共通教育の一部）及び各学部の専門教育で幅広く開講されている体験学修科目を通じて、「過疎・高齢化、離島・中山間地域問題、地域医療危機などの問題を抱える地域社会の現状を理解し、それらを解決するための力を培う」ことを目的として、充実した教育プログラムを展開している。

科目の例と概要（写真は上記 Web Page のリンク先記事より転載）：

「山陰地域の自然災害」（前期・金）自然災害に関する入門的授業として、気象災害、地震災害、地盤災害など災害ごとの時間的・空間的な特性や発生の仕組みを、山陰地域に発生する災害を事例として理解するとともに、防災・減災について関心を持ち、主体的に考えるための基礎力を養う。授業期間中の土曜日などに巡検授業を行う。



「中山間地域フィールド演習」（前期・不定期集中、2年次以上対象）島根県内における中山間地域の割合は8割を越えている状況にあり、様々な点で課題を抱えている。本授業では、実際にこのような地域へと出向き、地域で暮らす人々と連携する中で中山間地域の現状を知り、課題を学ぶことで、中山間地域に対する自分の考え・想い(地域貢献マインド)を持つことを目的としている。大学での講義のほかにグループでのフィールドワークを含む。



参考資料：

- ・シラバス（添付）

受講にあたって

地域をキャンパスとして学ぶ
「山形から考える」

学士課程基盤教育機構長 千代 勝実

山形大学では、みなさんが生活し、学び、交流する地域を、重要な学びのための環境として位置付けています。普段意識することはないかもしれませんが、みなさんの生活は単に家と大学の往復というだけでなく、生活圏である地域の上に成り立っています。地域とは、商店で買い物したり、アルバイトをしたり、趣味を楽しんだり、友人や家族・近所の人々と交流したりといった、このような様々な活動をおこなう舞台です。

基幹科目「山形から考える」は、普段は空気のようにみなさんにとり囲んでいる地域というものを、あらためて意識的に見つめ直し、基幹科目の一つの枠組みである「人間を考える・共生を考える」とともに、より具体的な課題発見・解決といった学習活動をおこなっていくことで、地に足のついた成長につながっていく役割があります。基盤共通教育の授業は専門を漏らさず突き詰めるというよりは、目の前にある課題を解決するために手元に体系的な知識や技術を生かす必要に応じて少し勉強し不完全ながらも解決していく器用仕事的な、いうなれば手料理や日曜大工に似たところがあります。「山形から考える」をはじめとした基幹科目は、このようにこれまでも異なった学び方の入口だということを、意識しながら勉強し課題に取り組んでいくといえます。

大学1年生にとって「山形から考える」で取り上げている少し離れた場所にある非日常的な、しかし極めて具体的な題材は、このような学びの導入としてわかりやすいものになるでしょう。しかし、本当に大切なことは、そこで学んだことをその場で終わらせてしまうのではなく、みなさんが生活している地域の日常に生かしたり、さらには他の地域や社会活動での課題発見・解決に生かしたりすることです。この授業を履修して、みなさんがより一層自分の足もと、そしてはるか遠く先を見つめることができる、自立した人間へ一歩成長することを期待しています。

地域学習タイプ

講義型	体験型
教員による講義を重視 現地観察(地域における受動的な学び) and/or 外部講師による授業は行わない。	1日程度の地域での体験学習(地域における能動的な学び)を行う。

協働学習タイプ

個人	グループ
個人による学習を重視し、協働学習(グループワークやプレゼンテーション)は行わない。	学習時間の1/4以上で、協働学習を行う。
学習時間の1/4以下で、協働学習を行う。	学習時間の1/2以上で、協働学習を行う。

03

授業一覧

前期

- 07 山形の方言と日本語
- 08 地域の知恵と科学の力でエコ社会創り
- 09 山形の歴史と文化
- 10 地方で考える
- 11 チャレンジ the ミッションIー食で育む地域の語り場ー
- 12 世間の歩き方
- 13 フィールドワーク城下町
- 14 山形の歴史と文化
- 15 地域体験スタートアップ
- 16 山形の水土里(みどり)資源
- 17 地域の中の大学
- 18 石造文化と祈り
- 19 先史時代の山形を訪ねる
- 20 人間の生活と食の安全・安心I
- 21 山形大学って向だろう?
- 22 新聞で山形を知る
- 23 リーグと地域社会
- 24 フィールドワーク・月山ー景観から地域を読むー
- 25 「地域」と「学校」の関係から山形を考える
- 26 フィールドワーク山形で働く魅力(プレインターンシップ)
- 27 山形から考える地域産業
- 28 山形の森づくり体験
- 29 農業・農村の技術とマネージメントを学ぶ(農業体験)
- 30 つまずきから学ぶリーダーシップ
- 31 山形から考える地域づくり
- 32 フィールドラーニングー共生の森もかみ
- 33 フィールドラーニング庄内

後期

- 34 山形と紅花の歴史
- 35 雪国で考える
- 36 地域体験スタートアップ
- 37 山形の火山、世界の火山
- 38 山形の歴史と文化
- 39 グローバル社会で活躍するためにー国際派の先輩をお招きしてー
- 40 観光経済学と地域ブランド
- 41 山形の食を考える
- 42 キャリア形成とワークライフバランス
- 43 歴史民俗資料を読み解く
- 44 人間の生活と食の安全・安心II
- 45 近代文学の中の山形
- 46 世間の歩き方
- 47 新聞で山形を知る
- 48 仕事の流儀ープロから学ぶ仕事のやりがいー
- 49 雪とともに生きる体験
- 50 地域のいきわいづくりに体験
- 51 やまがたフィールド科学II
(雪との共生ー雪国の自然と生活ー)

目次

02

受講にあたって

05

学習地域別マップ

07

授業紹介

52

現地講師からの
学び方

53

現地体験の服装

55

山形県の基礎情報

基盤共通教育のシラバスはこちら

<http://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/syllabus/2019/7sylla.htm>

前期

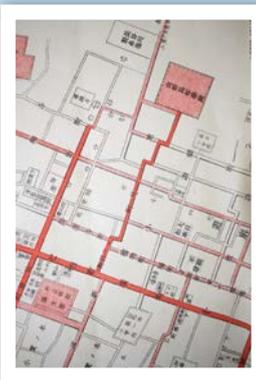
フィールドワーク城下町

担当教員 | 阿部 宇洋

曜日校時 | 火曜日 5・6

授業の目的

山形市は霞城公園を中心とした城郭の名残がある都市です。これから大学生活を過ごす地域の魅力を見ずから発見し、歴史的な、文化的な物の見方、文化財や景観から情報を取得し調査する方法、比較方法を身につけます。



授業内容

基礎的な内容を講義した後、フィールドワークの計画をたてます。その計画に基づき実際に山形市中心街をフィールドワークしてもらい、レポート、発表をします。発表をしながら、発表が主体となって山形市内を調査する講義です。

1. オリエンテーション
2. 山形の城下と絵図、地図、班編制
3. フィールドワーク1 (大学周辺)
4. フィールドワーク計画の作成 (グループワーク)
5. フィールドワーク2 (城下)
6. フィールドワークの結果をまとめる
7. みずからの関心事項の調査
8. みずからの関心事項の発表 (レポート提出)
9. フィールドワーク3 (城下追調査)
10. 調査場所で興味があった事項を調査、まとめ
11. 発表計画
12. 発表作成1
13. 発表作成2
14. 城下の魅力を発表
15. リフレクション

地域学習タイプ

講義型 ● 体験型 ●

協働学習タイプ

個人 ● グループ ●

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
山形市

学生へのメッセージ

山形市は城下町として栄え、近江商人が様々な文化を運んできたといわれています。皆さんが少なくとも1年間は生活する山形市です。フィールドワークを通して城下町山形の魅力を一緒に探求、発見しましょう。

山形の歴史と文化

担当教員 | 荒木 志伸

曜日校時 | 火曜日 9・10

授業の目的

山形について歴史・文化的視点から学び、地域への愛着を深める授業です。山形大学に在籍している期間はもちろん、卒業後も山形という土地とそこで触れた文化に少なからず影響されるところが多いはずです。「地域」を知ることには、自らの生まれ育った場所を認識することであり、その結果として「自己」を発見することでもあります。山形で生まれ育った人も、初めて来られた人も、本授業で山形についての理解を深めてください。

授業内容

毎回、山形の歴史や文化に関する内容を取り上げます。多くの映像資料などをパワーポイントを使用しながらわかりやすく解説していきます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 山形県の概要
- 第3回 山形の歴史・文化財①
山形の絵画・古文書
- 第4回 山形の歴史・文化財② 山形の考古資料
- 第5回 山形の歴史・文化財③ 山形の仏像
- 第6回 山形の歴史・文化財④ 山形の建築
- 第7回 山形の歴史・文化財⑤ 山形の日本遺産
- 第8回 山形の文化① 果物と在来野菜
- 第9回 山形の文化② 種文化-ラーメン・蕎麦
- 第10回 山形の文化③ G1山形-優れた日本酒
- 第11回 山形の文化④ 伝統工芸
- 第12回 山形の文化⑤ 附属博物館の見学
- 第13回 山形の歴史と人物① 最上義光
- 第14回 山形の歴史と人物② 上杉鷹山
- 第15回 山形の歴史と人物③ 授業のまとめ、山形および山形大学に関わる人物

授業で学べる山形関連情報

対象市町村：
酒田市、鶴岡市、村山市、山形市、米沢市、新庄市、寒河江市、酒田市、新庄市、村山市

地域学習タイプ

講義型 ● 体験型 ●

協働学習タイプ

個人 ● グループ ●

学生へのメッセージ

「山形ってどんなところ?」と聞かれて、1つでも2つでも自らの表現で語るができるようになってください。山形には全国に誇る歴史や文化財、食文化が沢山あります。それらの内容と背景を学ぶことで、山形を好きになって頂きたいと思っています。なお、担当教員は平成30年度ベストティーチャーを受賞しています。

<p>フィールドワーク 城下町(山形から考える) Fieldwork Castle Town (Thinking Outside Yamagata) 担当教員：阿部 宇洋(ABE Takahiro) 担当教員の所属：学士課程基盤教育機構 開講学年：1年,2年,3年 開講学期：前期 単位数：2単位 開講形態：講義</p> <p>開講対象： 科目区分：</p> <p>【授業の目的】 山形市は橿城公園を中心とした城郭の名残がある都市です。これから大学生生活を過ごす地域の魅力をみずから発見し、歴史的な、文化的な物の見方、文化財や景観から情報を取得し調査する方法、比較方法を身につけます。</p> <p>【授業の到達目標】 課題発見能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、行動力、社会性の基礎的な力を身につけること。</p> <p>【授業概要 (キーワード)】 山形、歴史民俗資料学、学生主体形授業 (アクティブラーニング) (▲フィールドワーク、▼グループワーク、△発表、★事前学習、○課題探求)</p> <p>【科目の位置付け】 本授業は、地域にある歴史や文化財に関する調査、情報収集、観察、など基礎的な方法を学ぶとともに、地域フィールドワークの実践などを学ぶ基幹科目です。</p> <p>【授業計画】 ・授業の方法 ・授業方法 基礎的な内容を講義した後、フィールドワークの計画をたてます。その計画に基づき実際に山形市中心街をフィールドワークしてもらい、レポート、発表をします。 学生が主体となって山形市内を調査する講義です。</p> <p>・日程 ・日程 (火曜5、6限 13:00～14:30) 1、オリエンテーション 2、山形の城下と絵図、地図、班編制 3、フィールドワーク1 (大学周辺) 4、フィールドワーク計画の作成 (グループワーク) 5、フィールドワーク2 (城下) 6、フィールドワークの結果をまとめる 7、みずからの関心事項の調査 8、みずからの関心事項の発表 (レポート提出) 9、フィールドワーク3 (城下追調査) 10、調査場所で興味があった事項を調査、まとめ 11、発表計画 12、発表作成1</p>	<p>13、発表作成2 14、城下の魅力を発表 15、リフレクション</p> <p>【学習の方法】 ・受講のあり方 積極的に町へ飛び出して下さい。現代では様々なツールでの情報収集が可能になっています。手持ちのスマートフォンなどを活用しながら、写真や、位置データ、などを利用し、情報化する手法を事前に予習してください。</p> <p>・授業時間外学習へのアドバイス グループでの発表に向けて積極的に集まり、発表の構想や、追加調査を実施してください。</p> <p>【成績の評価】 ・基準 1)計画書や、フィールドワークを実施した後のフィールドノートのまとめ方などの活動報告が期限内に提出されているかどうか。 2)発表は個人によるグループ内での発表とグループによる全体発表の2回を評価対象とし、他者への認知、理解度を評価の基準とします。</p> <p>・方法 ・方法 1)平常点 (参加度) 30 計画書、活動報告、フィールドノートなど 2)レポート 30 3)発表 40</p> <p>【テキスト・参考書】 テキスト 適宜山形市に関するプリントを配布します。 参考文献 『山形市史』、『山形民俗』</p> <p>【その他】 ・学生へのメッセージ ・学生へのメッセージ 「あるく・みる・きく・かんがえる」ことでこれまでの学校生活では体験した事ない知的探究心を育むことになります。 自身で壁作らず、挑戦してみてください。歴史民俗資料学、調査方法が学べる講義です。ぜひ受講してみてください。</p> <p>・オフィス・アワー 調査研究等で不在になる場合があります。適宜対応致しますが、事前にアポイントをとっていただくことを推奨します。taka.abe@cc.yamagata-u.ac.jp (基盤1号館2階阿部研究室)</p>
--	--

g82.306066-2019-G1-78719

地域のにぎわいづくり体験(山形)から考える

Experience-based learning in Yamagata: Regional activation (Thinking

Outside Yamagata)

担当教員：滝澤 匡(TAKIZAWA, Tadashi),阿部 宇洋(ABE, Takahiro)

担当教員の所属：地域教育文化学部/学課程基盤教育

開講学年：1年 開講学期：後期 単位数：2単位 開講形態：演習

開講対象： 科目区分：

【授業の目的】

- 地域活性化活動を通じて、山形県の魅力を体験的に学習します。
- 地域イベントの運営に参加し、地域資源を活用した地域の活性化活動を行います。地元の方々とグループで作業することを通じて、組織で活動する際に必要なコミュニケーション力や、自ら作業を見つけて出す行動力を伸ばして欲しいと思います。
- 教科書では知ることができない山形の魅力を五感で学び、深みある知識として習得することで、山形や地域への関心を高めてくれることを期待しています。
- 学生や地元講師との協働では、年齢や背景の異なる多様な人々の組織で活動する楽しみに出会え、社会人力を向上させることができます。
- そして、地域の魅力を知り能力を向上させた学生が、山形や自身の故郷において次世代を担う存在として活躍してくれることを究極的な目標としています。

【授業の到達目標】

- この体験型科目を履修した学生は、
- 1) 地域の活性化をはかるイベント運営を経験することにより、文化や風土など地域の魅力を体験的に理解できる。【知識・理解】
 - 2) グループでの協働作業を経験し、コミュニケーション (対話・情報伝達) ・チームワークの安全管理に関する能力を向上できる。【技能】
 - 3) 動機や能力の異なる多様なメンバーとの活動を通じて、自身の得手・不得手ややりがいなど自己の特性を理解できる。【態度・習慣】
 - 4) 地元講師からの指導を通じて、組織で活躍する際に必要な、年長者とのコミュニケーションや教えを受け楽しむを経験できる。【態度】
 - 5) 成果発表により、論理的で説得力のあるプレゼンテーション能力を向上できる。【技能】

【授業概要 (キーワード)】

アクティブラーニング、体験型学習、フィールドワーク、山形の魅力、文化、風土、グループワーク、社会人力の育成、地域創生

記述：○、グループワーク：●、発表：☆、実技：▲

【科目の位置付け】

山形の地域資源を体験的に学習することで、地域の現状と将来的課題を理解し、地域に貢献する意欲のもとに、多様な考え方や異なる立場を尊重し、他者と協働して課題解決に取り組むことができるコミュニケーション能力などの社会人力を養成するものである。

【授業計画】

・授業の方法

【山形市・西山形地区の活性化をはかる「柏倉にぎわいづくりネットワーク」が行うイベントの運営に参加します。】11月の「干柿まつり」では、収穫されなくなった地域の柿を利用し、繁華街の商業施設に昔ながらの秋の風景を蘇らせる活動をを行います。1月の「柏倉にぎわいづくり」では、伝統行事「わいわい」の会場を雪灯籠や雪洞(ぼんぼり)の灯りで彩り、盛り上げる活動を行います。

・日程

①ガイダンス → ②履修決定 → ③事前打合せ → ④【現地での演習】 11月、1月 合計約5日間 → ⑤成果発表会(2月)

詳細はガイダンスで連絡します。

【学習の方法】

・受講のあり方

- 地元講師の方々から積極的に吸収して下さい。高校までの受動的な学習とは異なる機会を活用し、楽しみながら学んで下さい。
- 授業時間外学習へのアドバイス
- 配布資料やインターネットで事前学習をしていくことが望ましいです。
- 演習後は自身の行動をふりかえり、レポート作成に備えてください。

【成績の評価】

・基準

- 現地演習への参加が基本です。2日以上欠席は認めません。
- 毎回のふりかえりレポートと授業態度で参加意識を評価します。
- レポートでは得られた知識や経験を元に発想的な思考ができるか評価します。
- コミュニケーション等の社会人力の向上も重要な目的です。講師の方と積極的に交流し自発的に学習する点を参加意識として評価します。
- 成果発表会では、活動を報告してもらいます。チームワークを発揮し簡潔で分かりやすく的確にまとめられることが合格の基準です。

・方法

- 1) 授業参加点：50点(5日間の参加では40点)
- 2) 教員および講師による活動評価：レポート30点+学習態度10点
- 3) 成果発表会：10点

【テキスト・参考書】

事前に指定するテキスト・参考書はありません。授業中に配布します。

【その他】

・学生へのメッセージ

- 履修にあたっての留意点
 - 大学から演習地へは借上バス等を利用します。
 - 体験中の食事にかかる費用は学生各自の負担になります。
 - オフィス・アワー
- 地域教育文化学部1号館4Fの研究室でいつでもお待ちしております。事前にメールで連絡してくれると確実です。

g82.306056-2019-G1-79902

シラバス参照/授業情報参照
別の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by other conditions

シラバス基本情報	
更新日時	2019/03/13 16:33
科目分類	教養育成科目
時間割コード	F0B2701
授業科目名	山陰地域の自然災害
授業科目名(英語)	Natural Disasters in the San-in Region
科目コード	F0B2700
科目ナンバー	
担当教員(所属)	永松 正則(法文学部法経学科)
単位数・時間数	2.0
履修年次	1年,2年,3年,4年
開講学期	2019年度 前期
曜日・時限	金5,566
選択/必修/選択必修/自由	
履修資格	
各種教育プログラム名称	自然災害軽減科学プログラム

[担当教員一覧](#)

シラバス詳細情報	
授業形態	
授業の目的	自然災害に関する入門的授業として、気象災害、地震災害、地盤災害など災害ごとの時間的・空間的な特性や発生の仕組みを、山陰地域に発生する災害を事例として理解するとともに、防災・減災について関心を持ち、主体的に考えるための基礎力を養う。
授業の到達目標	(1) 自然災害の多様性について例を挙げて述べることができる。(知識) (2) 自然災害が発生する基本的な仕組みを説明することができる。(知識) (3) 防災・減災について関心を持ち、主体的な問題意識を示すことができる。(態度)
授業の内容および方法	授業は、山陰地域に発生する自然災害の歴史や特徴、発生の仕組み並びに災害対策や被害者救済の問題を講義形式で学ぶ前半と、災害の事例やその対策を現場で学ぶ後半のフィールド学習(巡検授業)で構成されます。 1. ガイダンス、山陰地域の主な自然災害 注 発武(総合理工) 2. 大雨災害の発生とその背景 田坂郁夫(嘱託講師) 3. 水文学からみる洪水災害 増本清(総合理工) 4. 浜田地震と昭和南海地震 林広樹(総合理工) 5. 山陰に押し寄せた津波の痕跡を探る 酒井哲弥(総合理工) 6. 山陰地域の軟弱地盤災害 志比利秀(総合理工) 7. 山陰地域の斜面災害 注発武(総合理工) 8. 災害対策とその工法 藤井俊逸(嘱託講師) 9. 3S(ドローン・GIS・GIS)を用いた防災計画の作成 永松正則(注)

10-1-13. 巡検授業 14. まとめ	注 発武(総合理工)
授業の進め方	前半は山陰地域のさまざまな自然災害を事例として、担当教員がそれぞれの専門の立場から災害の歴史や発生の仕組み、災害対策、法的問題などについて講義します。これを受け、後半には近年発生した災害の現場、災害リスクの高い地域、災害対策の現状を現地に出かけて学びます。巡検授業は6月29日(土曜日)を予定していますが、第1回の授業日に日程を決定します。
授業キーワード	
テキスト(図書)	
参考文献(図書)	
参考文献(その他)・授業資料等	西村裕二郎・杉山直隆(監修)「二訂版 スクウェア最新図説地学」, 第一学習社(078-4-80404-658-7 C7044) 担当教員がそれぞれ参考となる文献、資料を紹介いたします。資料・レジュメを授業ごとに配布します
成績評価の方法およびその基準	担当教員ごとに課すレポート 5 6点(7点×8) 巡検授業レポート 4 4点 合計 100点満点で60点以上合格
履修上の注意	本授業では後半に実施する巡検授業を重視して行います。これに参加することは本授業の履修において必須です。
オフィスアワー	担当教員ごとに指示しますが、オムニバス授業ですので授業終了時に積極的に質問してください。
ディプロマポリシーとの関係区分	
使用言語区分	
その他	この授業は、地域の理解を深めるペーパーストーン科目です。

授業追加情報

該当するデータはありません

担当教員一覧

No.	担当教員	担当教員所属
1	永松 正則	法文学部法経学科
2	増本 清	総合理工学部
3	注 発武	総合理工学部
4	酒井 哲弥	総合理工学部
5	志比 利秀	総合理工学部
6	林 広樹	総合理工学部
7	田坂 郁夫	法文学部

シラバス詳細情報を共有している期間が存在します

時間割所属	時間割コード	授業科目名
教養教育	GK10221	山陰地域の自然災害
教養教育	F0B2701	山陰地域の自然災害

[別の条件でシラバスを参照する/Inquiry syllabus by other conditions](#)

シラバス参照/授業情報参照
別の条件でシラバスを参照する [Inquiry_syllabus_by_other_conditions](#)

シラバス基本情報	
更新日時	2019/03/19 12:03
科目分類	教養育成科目
時間割コード	G0B1103
授業科目名	中山間地域フィールド演習
授業科目名(英語)	Fieldwork seminar in semi-mountainous area
科目コード	G0B1100
科目ナンバ	
担当教員(所属)	田中 久美子(大学教育センター)
単位数・時間数	3.0
履修年次	2年,3年,4年
開講学期	2019年度 前期
曜日・時限	他0
選択/必修/選択必修/自由	
履修資格	受講定員は20名程度
各種教育プログラム名称	キャリア総合育成コース (H28入学) キャリアデザインプログラム (H28入学) , キャリアデザインプログラム (H29入学) , キャリアデザインプログラム (H30入学) , キャリアデザインプログラム (2019入学) 環境教育プログラム
担当教員一覧	
シラバス詳細情報	
授業形態	島根県では、中山間地域を「産業の振興、就労機会の確保、保健・医療・福祉サービスその他の社会生活における条件が不利で振興が必要な地域」と定義しています。現在、島根県内における中山間地域の割合は8割を超えている状況にあり、様々な点で課題を抱えています。本授業では、実際にこのような地域へと向き、地域で暮らす人々と連携する中で中山間地域の現状を知り、課題を学ぶことで、中山間地域に対する自分の考え・想い(地域貢献マインド)を持つことを目的としています。
授業の目的	1. フィールドワークを通じて、地域の特徴や課題を的確に理解・把握することができる。 2. 地域の方々と連携しながら、活動に取り組むことができる。 3. 地域の方々と活動を通して、地域の人の想いを知り、自分の考えを持つことができる。
授業の到達目標	授業の内容は大きく分けて、大学での講義と地域でのフィールドワークの2つに分か

<p>れます。 地域でのフィールドワークは、5～11月頃を中心として実施することを予定しています。 また、授業の性質上、グループ単位での活動が中心となります。</p> <p>1. ガイダンス 2. 地域振興・雲南市を事例に。(4月中旬) 3. 活動地域決定マッチングバスツアー@雲南市 (5月中旬土曜日) 4. 地域での活動に向けた個人目標設定 (5月下旬)</p> <p>《地域でのフィールドワークの実施：5～11月頃》</p> <p>5. フィールドワーク1 6. フィールドワーク2 7. フィールドワーク3 8. 中間報告会 (9月上旬) 9. フィールドワーク4 10. フィールドワーク5 11. 成果のまとめ1 12. 正課のまとめ2 13. 成果のとりまとめ3 14. 最終成果報告会 (12月中旬) 15. 振り返り、まとめ (1月中旬)</p> <p>※フィールドワークの実施回数や形式は、活動地域によって異なる場合があります。 担当教員からの連絡に注意してください。</p>	<p>授業の内容および方法</p>
<p>授業の進め方</p> <p>大学での講義は不定期で開催します。(主に6コマの時間帯に実施します) グループ単位での活動と、フィールドワークを組み合わせて実施します。前半部では、地域で学ぶ前段階として、地域について学習します。その後、実際に地域へと入り、フィールドワークを行います。フィールドワークの際には、地域の方にも参加して頂き、地域に関する情報について深く学びます。</p> <p>フィールドワークで得たことを分析・整理した上で、最終的には成果報告会において発表を行います。</p>	<p>授業キーマワード</p> <p>テキスト(図書)</p> <p>参考文献(図書)</p> <p>参考文献(その他)・授業資料等</p> <p>成績評価の方法およびその基準</p> <p>1.最終レポートに対する評価：20点 2.最終成果報告会におけるプレゼンテーション：40点 3.フィールドワークにおける活動報告に対する評価：40点 ※授業参加度なども考慮します</p> <p>4月に実施する第11回目の講義で、授業の詳細を説明します。 履修を希望する学生は、必ず出席してください。</p> <p>★初回ガイダンス(以下のどちらかに参加してください) 日時：4月5日(金)12:15～12:45 場所：教養講義室棟1号館 101教室</p>

<p>履修上の注意</p> <p>日時：4月10日（水）12:15～12:45 場所：教養講義室棟1号館 101教室</p> <p>本授業は、グループ単位での活動が基本となります。また、授業の性質上、授業外でのグループ活動が必須となります。フィールドワークとして、地域の方々の連携が必要不可欠です。地域の方々の迷惑とならないよう、自覚と責任を持って受講してください。</p>	<p>月曜日～金曜日（9:00-18:00） 事前に在室・予定を確認してください 連絡先：0852-32-9701 / tamakaku (777)@shimane-u.ac.jp</p>									
<p>オフィスアワー</p>										
<p>ディプロマポリシーとの関係区分</p>										
<p>使用言語区分</p>										
<p>その他</p> <p>この授業は「キャリアデザインプログラム」の対象科目です。 この授業は就業力育成特別教育プログラムの対象科目です。 就業力育成特別教育プログラムの「地域貢献人材育成コース」の履修生を優先します。 この授業は地域の理解を深めるベーストーン科目です。</p>										
<p>授業追加情報</p> <p>該当するデータはありません</p>										
<p>担当教員一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>担当教員</th> <th>担当教員所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>田中 久美子</td> <td>大学教育センター</td> </tr> </tbody> </table>		No.	担当教員	担当教員所属	1	田中 久美子	大学教育センター			
No.	担当教員	担当教員所属								
1	田中 久美子	大学教育センター								
<p>シラバス詳細情報を共有している時間帯が存在します</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間割所属</th> <th>時間割コード</th> <th>授業科目名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教養教育</td> <td>G0B1103</td> <td>中山間地域フィールド演習</td> </tr> <tr> <td>教養教育</td> <td>CG110093</td> <td>中山間地域フィールド演習</td> </tr> </tbody> </table>		時間割所属	時間割コード	授業科目名	教養教育	G0B1103	中山間地域フィールド演習	教養教育	CG110093	中山間地域フィールド演習
時間割所属	時間割コード	授業科目名								
教養教育	G0B1103	中山間地域フィールド演習								
教養教育	CG110093	中山間地域フィールド演習								

別の条件でシラバスを参照する/Inquiry_syllabus_by_other_conditions

カリキュラム構成を見直した事例

長崎大学・金沢大学 他

1

新しい教養教育の流れ

科目構成の見直し, 主体性を引き出す工夫

1. 学生自身が興味・関心のあるテーマを多面的に学ぶ
2. 大学が育成する人材像に沿った具体的なテーマの設定
3. 幅広い基礎知識から展開的な内容へとつなぐ

2

新しい教養教育の流れ

科目構成の見直し, 主体性を引き出す工夫

1. 学生自身が興味・関心のあるテーマを多面的に学ぶ

長崎大学 熊本大学の事例

2. 大学が育成する人材像に沿った具体的なテーマの設定

3. 幅広い基礎知識から展開的な内容へとつなぐ

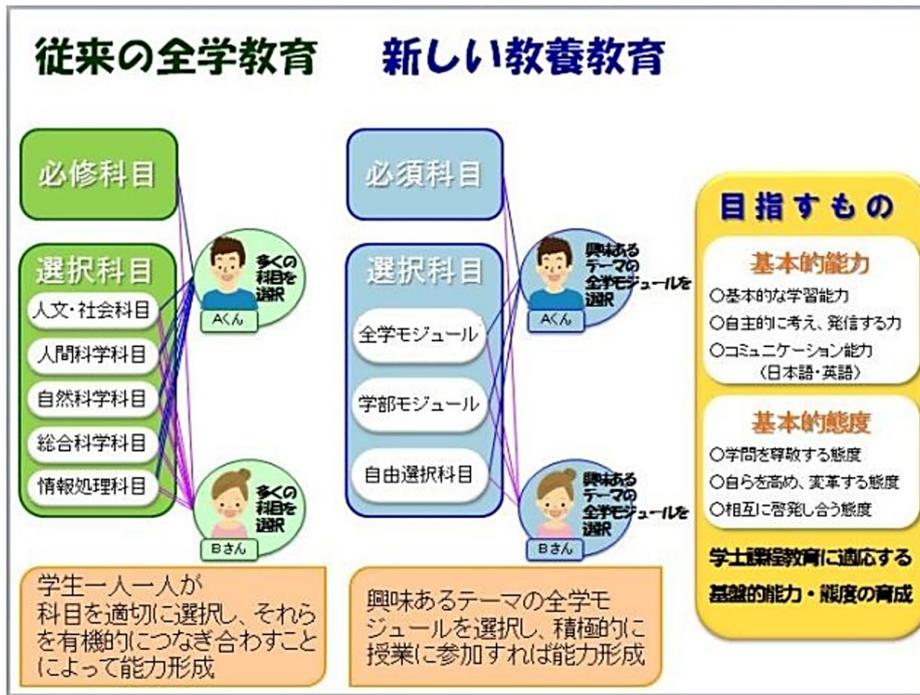
3

長崎大学の授業科目の構成

分類	科目区分
教養基礎科目	教養ゼミナール科目
	情報処理科目
	健康・スポーツ科目
	キャリア教育科目
	地域科学科目
	外国語科目
モジュール科目	全学モジュールI科目
	全学モジュールII科目
	学部モジュール科目
自由選択科目	自由選択科目

4

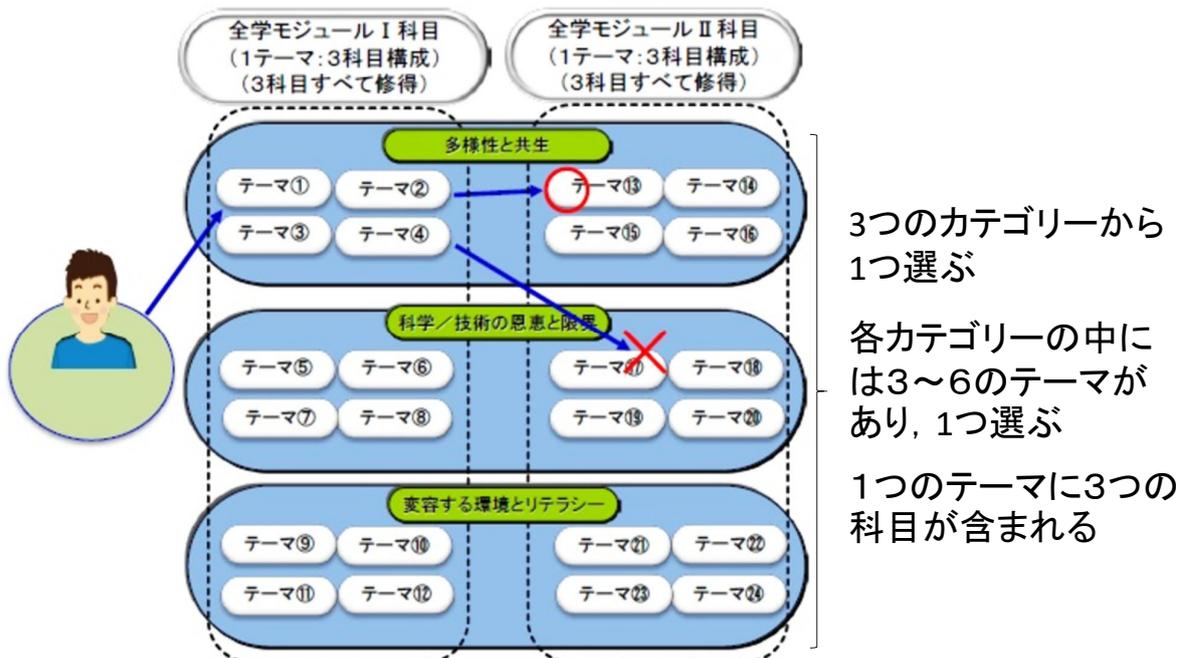
長崎大学の全学モジュール



現代的な課題となっているテーマのもとに集められた授業科目群(これをモジュールと呼びます)の中から興味のあるモジュールを一つ選び、それらを学習することによって、そのテーマに関する多面的な見方、考え方を身につけることができます。

5

長崎大学の全学モジュール科目



学生は各テーマに含まれる3科目をまとめて選択することになる
全学モジュールIで選択したカテゴリーは全学モジュールIIでも選択する

6

テーマNO.	カテゴリー	テーマ名	責任部署
A1	多様性と共生	現代経済と企業活動	経済学部
A2	多様性と共生	環境と人間の持続可能な発展	研究開発推進機構
A3	多様性と共生	日本を知り、世界を知る	多文化社会学部
A4	科学/技術の恩恵と限界	薬と生命科学を理解するための基礎科学	医歯薬(薬学系)
A5	科学/技術の恩恵と限界	リスク社会を理解する？医療と健康、社会科学、科学技術	全ての学部
A6	科学/技術の恩恵と限界	核兵器のない世界を目指して	核兵器廃絶研究センター
A7	科学/技術の恩恵と限界	暮らしの中の科学1	工学部
A8	変容する環境とリテラシー	生体の機能・障がい・回復の科学	医歯薬(医学系)
A9	変容する環境とリテラシー	教育の基礎	教育学部
A10	変容する環境とリテラシー	環境をめぐる諸問題	環境科学部
A11	変容する環境とリテラシー	暮らしに活かす情報技術	ICT基盤センター
A12	変容する環境とリテラシー	国際社会を理解するための多様な視点	グローバル連携機構
A13	変容する環境とリテラシー	コミュニケーション基礎講座	大学教育イノベーションセンター
B1	多様性と共生	ヒトのからだを探る	医歯薬(医学系)
B2	多様性と共生	健康と共生	医歯薬(保健学系)
B3	多様性と共生	現代経済と企業活動	経済学部
B4	多様性と共生	変わり行く社会を生きる1	教育学部
B5	多様性と共生	海洋の生物多様性と生態系サービス	水産学部
B6	多様性と共生	日本を知り、世界を知る	多文化社会学部
B7	科学/技術の恩恵と限界	ヒトの生物学とストレス	医歯薬(歯学系)
B8	科学/技術の恩恵と限界	リスク社会を理解する：健康と医療・経済と生活・科学と技術	すべての学部
B9	科学/技術の恩恵と限界	暮らしの中の科学	工学部
B10	変容する環境とリテラシー	教育の基礎	教育学部
B11	変容する環境とリテラシー	現代の教養	教育学部
B12	変容する環境とリテラシー	環境問題と環境政策	環境科学部

全学モジュールIのテーマ例

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールI科目
テーマ名	19-A3 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュールII科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	中村則弘	責任部署	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならぬからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にもなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くことになり、また「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎	日本語は敬語があって美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義を受ければわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言
近現代のアジアと日本	中村 則弘	近代世界システムとの関連から、近現代の東アジアと日本の関係をひもとく。日本社会、中国社会、コリア社会の歴史的特性への理解を深めつつ、近代社会のあり方自体を問い直す批判力・構想力を鍛えてゆく。	東アジア 世界システム 社会変動 オルタナティブ
アフリカ入門	増田 研	アフリカには、紛争、教育、貧困、健康に関する、この世界の矛盾や課題が凝縮している。他方で、現代のアフリカは飛躍的な経済発展を遂げ、過去25年間で人口は倍増した。この講義では世界史におけるアフリカの政治的・経済的な位置づけを理解し、かつ、日本とアフリカの将来のかかわり方について議論を行う。	サブサハラアフリカ 世界史 開発途上国

全学モジュールIIのテーマ例

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュールII科目
テーマ名	19-a3 環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	研究開発推進機構
趣旨	21世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する知識を修得し、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、日本のエネルギー事情、環境汚染物質マネジメント、エネルギー・マネジメント等を理解し、研究・開発や企業・法人等における管理業務にも役立つものとする。あわせて、長崎大学におけるエネルギー管理、廃液処理などの実際に触れさせることにより、化学物質の取扱い、実験廃液・廃棄物の処理、エネルギー管理などに関心をもち、コミュニティの一員としての自覚を促し、長崎大学のよりよい環境を実現する一助とする。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展(sustainable development, SD)です。そのためには、環境保全の実際を理解するとともに、環境配慮への理解を深める必要があります。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する学習を行います。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
エネルギー・マネジメント	山下 敬彦 藤本 登	エネルギー・マネジメントの実際を理解するとともに、エネルギーに関する長崎大学の現状と課題について理解を深め、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	エネルギー・マネジメント、とるべき行動
有害化学物質のマネジメント	久保 隆 真木 俊英	有害化学物質のマネジメントについて理解するとともに、長崎大学における廃液処理の実際を見学し、長崎大学コミュニティの一員としてとるべき行動について理解を深める。	有害化学物質のマネジメント、廃液処理
廃棄物のマネジメント	竹下 哲史	廃棄物の処理に関する法律等を理解するとともに、廃棄物の分別を体験し、廃棄物のマネジメントに関する知識と理解を深める。	廃棄物の処理、廃棄物のマネジメント 長崎県

9

目標および授業編成の視点との対応

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的検討	倫理観	多様性の理解	協働性	考えをやり取りする力	関心	国際・地域社会への関心	A	B	C	D
												取り扱う	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り入れる	現代的な話題を取り入れる
エネルギー・マネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎
有害化学物質のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○			○	○	◎
廃棄物のマネジメント	○	◎	○	◎	○	○	○	◎	◎	○			○	○	◎
◎(特に重視)の数	0	3	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	3
○(重視)の数	3	0	3	0	3	3	3	0	0	3	1	3	3	0	0

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

新しい教養教育の流れ

科目構成の見直し, 主体性を引き出す工夫

1. 学生自身が興味・関心のあるテーマを多面的に学ぶ
2. 大学が育成する人材像に沿った具体的なテーマの設定
金沢大学 三重大大学の事例
3. 幅広い基礎知識から展開的な内容へとつなぐ

11

金沢大学の授業科目の構成

共通教育科目

導入科目

GS 科目

GS 言語科目

基礎科目

初習言語科目

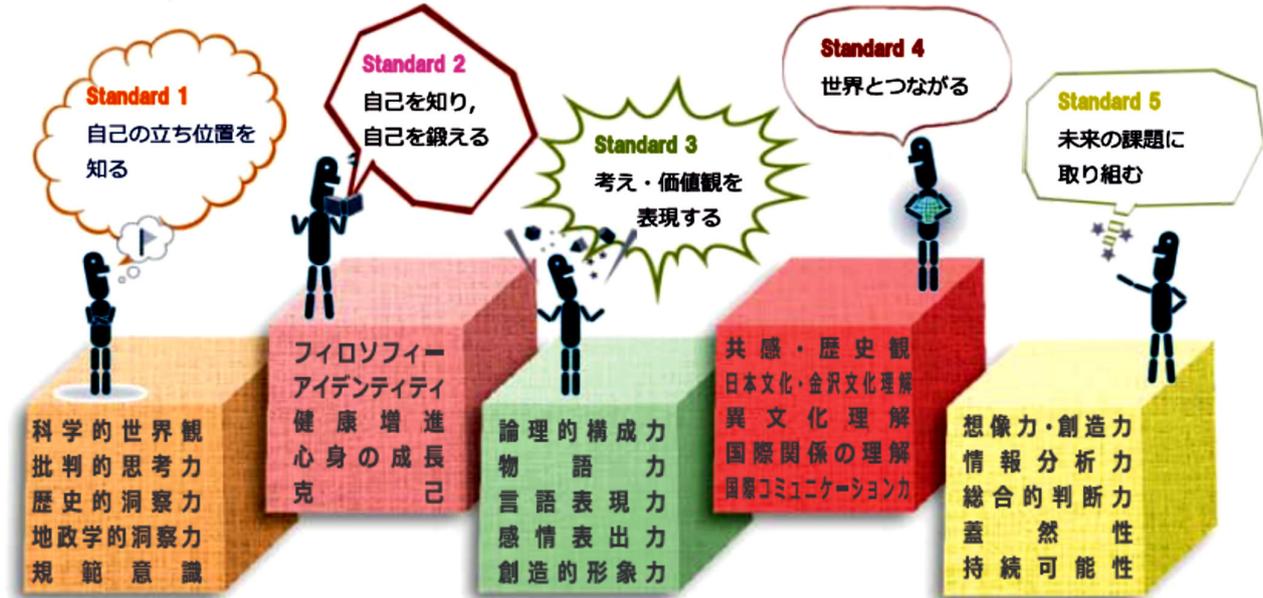
自由履修科目

12

KUGSとは？ 金沢大学<グローバル>スタンダード Kanazawa University "Global" Standard

金沢大学が育成する人材像

人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材



13

金沢大学のグローバルスタンダード科目

GS 科目

金沢大学生として学ばせたい科目を体系的に厳選。すべての学生は各Standardから3科目以上を選択。

Standard 1

- ・プレゼン・ディベート論 (初学者ゼミⅡ)
- ・クリティカル・シンキング
- ・価値と情動の認知科学
- ・論理学から見る世界/数学的発想法
- ・芸術と自己表現
- ・スポーツ科学

Standard 2

- ・現代世界への歴史学的アプローチ
- ・グローバル時代の政治経済学
- ・グローバル時代の社会学
- ・ケーススタディによる応用倫理学
- ・地球生物圏と人間
- ・物理の世界/化学の世界

Standard 3

- ・金沢・能登と世界の地域文化
- ・日本史・日本文化
- ・異文化間コミュニケーション
- ・異文化体験
- ・国際社会とボランティア
- ・グローバル社会と地域の課題

Standard 4

- ・哲学 (自我論)
- ・パーソナリティ心理学
- ・グローバル時代の文学
- ・健康科学
- ・細胞・分子生物学
- ・エクササイズ&スポーツ実技

Standard 5

- ・科学技術と科学方法論
- ・統計学から未来を見る
- ・情報の科学
- ・環境学とESD
- ・生活と社会保障
- ・人権・ジェンダー論

(1) GS科目

GS科目の学習成果を示します。各科目の詳細な説明は、98ページおよびシラバスを参照してください。

① 1群 自己の立ち位置を知る (KUGS1)

科目名	類	学習成果 (キーワード)				
		科学的 世界観	批判的 思考力	歴史的 洞察力	地政学的 洞察力	規範 意識
1A 現代世界への歴史的アプローチ	I	○	○	◎	○	○
1B グローバル時代の政治経済学		○	○	○	◎	○
1C グローバル時代の社会学		○	◎	○	○	○
1D ケーススタディによる応用倫理学		○	○	—	○	◎
1E 地球生物圏と人間	II	◎	○	○	—	—
1F 物理の世界／化学の世界		◎	○	—	—	—

② 2群 自己を知り、自己を鍛える (KUGS2)

科目名	類	学習成果 (キーワード)				
		フィロソ フィー	アイデン ティティ	健康増進	心身の 成長	克己
2A 哲学 (自我論)	I	◎	○	—	○	○
2B パーソナリティ心理学		○	○	—	○	◎
2C グローバル時代の文学		○	◎	—	○	○
2D 健康科学	II	—	○	◎	○	○
2E 細胞・分子生物学		○	◎	○	—	—
2F エクササイズ&スポーツ 実技		—	—	○	◎	○

15

新しい教養教育の流れ

科目構成の見直し, 主体性を引き出す工夫

1. 学生自身が興味・関心のあるテーマを多面的に学ぶ
2. 大学が育成する人材像に沿った具体的なテーマの設定

3. 幅広い基礎知識から展開的な内容へとつなぐ

神戸大学 千葉大学 山口大学 首都大学東京の事例

16

神戸大学:総合教養科目

基礎教養科目

所属する専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解する

- 人文系
- 社会科学系
- 生命科学系
- 自然科学系

総合教養科目

複眼的なものの見方、課題発見力を養成する

- 多文化理解
- 自然界の成り立ち
- グローバルイシュー
- ESD(持続可能な開発のための教育)
- キャリア科目
- 神戸学

* 文学部の卒業要件は基礎教養科目8単位, 総合教育科目8単位

* 理学部の卒業要件は基礎教養科目6単位, 総合教育科目6単位

17

千葉大学:教養展開科目

教養コア科目

幅広い知識や考え方、物の見方に触れる

- 倫理コア(論理・哲学・社会)
- 生命コア(生命・心理・発達)
- 文化コア(文化・芸術・歴史)
- 環境コア(環境・生活・科学)
- 国際コア(国際社会と日本)
- 地域コア(地域と暮らし)

教養展開科目

学問への興味・関心をさらに拡大・深化させ、豊かな教養へと結びつける

- データを科学する
- キャリアを育てる
- ジェンダーを考える
- 千葉大学の環境をつくる
- コミュニケーション リテラシー能力を高める
- 自然科学を学ぶ

* 文学部・理学部の卒業要件は教養コア科目を6単位, 教養展開科目を6~9単位

富山大学の教養教育

教養科目

学修の基礎となる幅広い知識を身に付けるため、様々な授業科目を設け、多彩な選択肢を提供

- 人文科学系
- 社会科学系
- 自然科学系
- 理系基盤教育系
- 医療・健康科学系
- 総合科学系

(x) 都市デザイン学部

	必修科目	選択科目	
人文科学系	—	16 単位以上 ただし、人文科学系から 4 単位以上、社会科学系から 4 単位以上、総合科目系から 4 単位以上を含むこと。	地域志向科目を 2 科目 4 単位を必ず含むこと。
社会科学系	—		
自然科学系	—		
医療・健康科学系	—		
総合科目系	—		
外国語系	4 単位		
保健体育系	—	1 単位	
情報処理系	2 単位		
計	6 単位	17 単位以上	

「第2部：他大学に学ぶ取り組み事例」における質疑応答のまとめ

質問① 専門を支える教養の意味は。それは専門に必要でない教養はいらない、ということなのか。

回答① “専門を支える”とは、単純に専門に必要か、そうでないか、という意味ではありません。教養教育には「専門教育を支える幅広い基礎知識の獲得」だけでなく、「現代社会における市民性の涵養」という観点や「人間性の基礎作り」の3つの観点があり、富山大学が目指すべき教養教育もこの3つの観点を取り入れていかなければなりません。人文科学、社会科学、自然科学、医療健康科学、総合科目など多くの教養科目は、専門以外の広い視野を身につけることによって、様々な角度から将来の専門とする学問を観ることができる、いうなれば「市民性を持った専門家」となる基盤をつくる科目です。これらの科目は専門と直結はしていないけれど、専門を学ぶ上で、学生自身の成長の支えになっていると考えます。(教養教育院：谷井)

質問② 学生の視点から望まれる教養教育と社会の視点から要求される教養教育にはズレがあるのではないか。

回答② “学生の視点から望まれる”の意味を考えると、2つのタイプの学生が思い当たります。ただ単位を取りやすい科目を望んでいる学生と、教養科目に自分が成長を感じられる何かを求めている学生です。私たちは後者のタイプの学生の視点に立って、このような学生が卒業後にも勉強しておいて良かったと思えるような教養教育を提供しなければいけません。この視点に立てば、学生が望む教養教育と社会が要求する教養教育にはズレはないと考えます。(教養教育院：谷井)

質問③ 専門教育と教養教育の協力関係をどうするのか。

回答③ 4年間の学部教育の中に、どのように教養教育を位置づけていくのかを、学部の中でしっかり考えていくことが必要です。学部の専門教育は専門家を育てるという意味でもとても重要ですが、「市民性の涵養」という観点からは倫理学と哲学などの教養科目はどの分野でも重要です。また、特に初年次における「主体的に学ぶ意識の基礎作り」として、どのような教養教育が必要かということも大事です。学部の中で、教養教育の位置づけを定義し直して、学部として求める教養教育を提示してもらうことで、教養教育と専門教育が協力し合っているものと考えます。(教養教育院：谷井)

質問④ 英語教育に外部試験を取り入れることに対して本学外国語部会英語分科会としての見解はどうか。

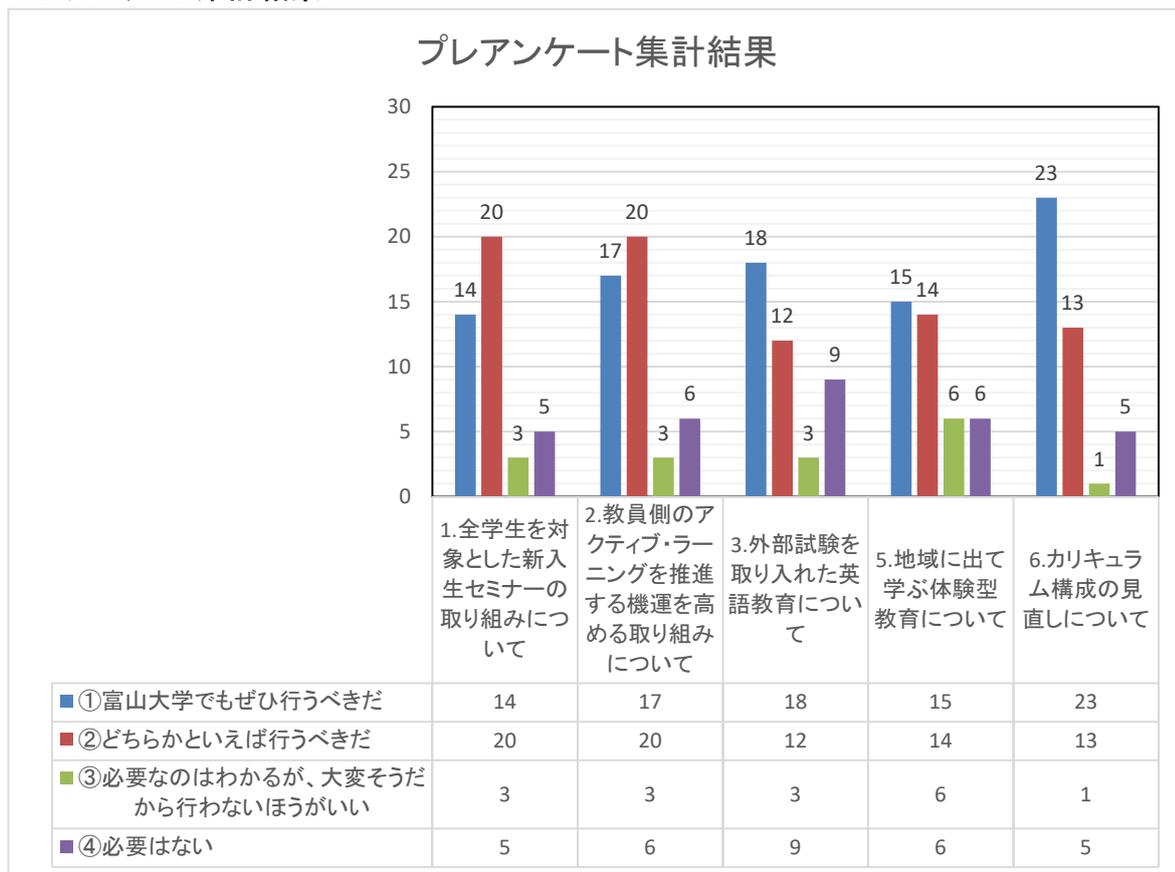
回答④ 外国語部会英語分科会では、令和4年度の教養教育英語カリキュラム改訂に向けて、現在「テーマ別・目的別」英語授業や、学生自身による主体的選択の授業、また

外部試験などを援用した「習熟度別」英語授業の構築を、その是非を含め考案しているところである。一部は令和2年度から順次導入し、また併せて先行大学から責任者を招聘し、その事例発表を参考にするなどして、実現の可能性を探っている。

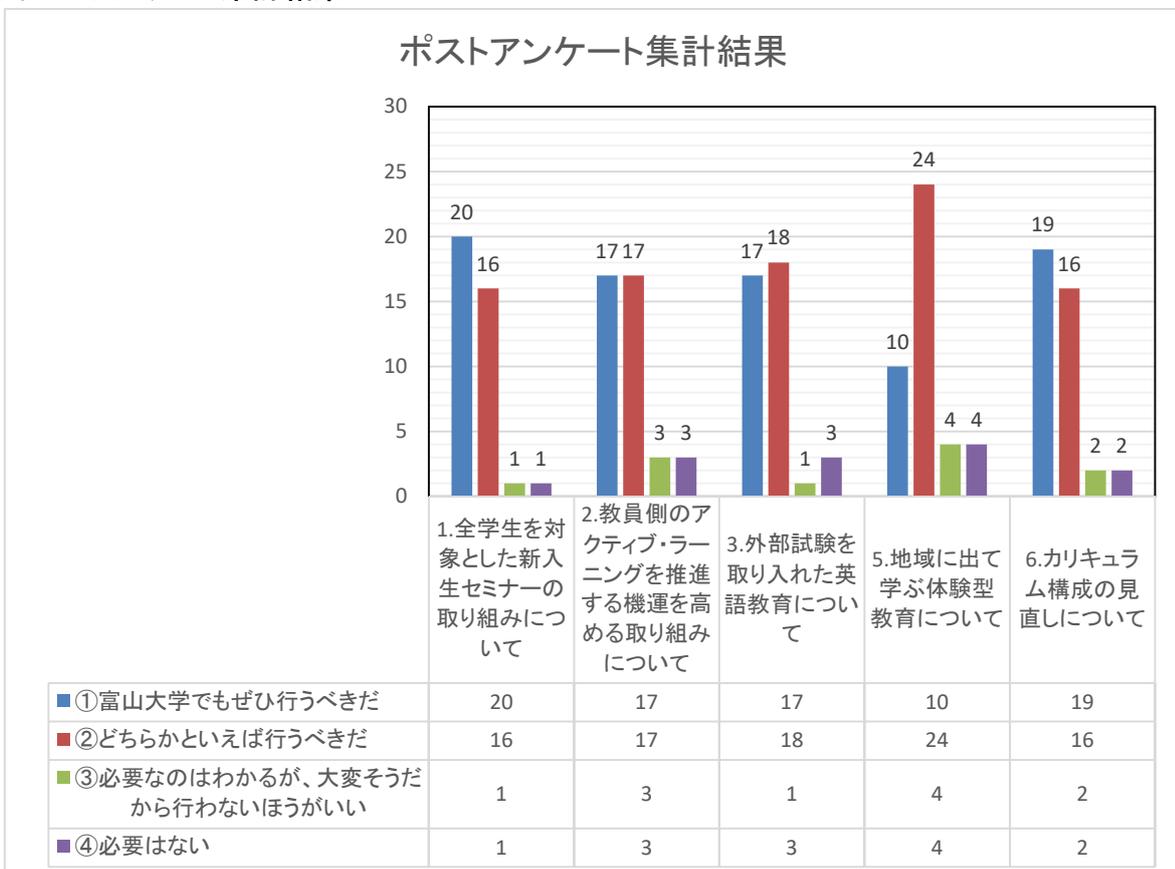
今後、教養教育院FDで他部会等が実施責任母体である内容を取り上げる機会がある場合、それらの組織と連絡・連携してFDが行われることを期待したい。(外国語部会長：木村)

第3部：富大の授業を おもしろくするために

□プレアンケート集計結果



□ポストアンケート集計結果



	1.全学生を対象とした 新入生セミナーの取 組みについて	2.教員側の アクティブ・ ラーニング を推進する 機運を高め る取組み について	3.外部試験 を取り入れ た英語教育 について	5.地域に出 て学ぶ体験 型教育につ いて	6.カリキュラ ム構成の見 直しについ て
①富山大学でもぜひ行うべきだ	14	17	18	15	23
②どちらかといえば行うべきだ	20	20	12	14	13
③必要なのはわかるが、大変そうだから行わないほうがいい	3	3	3	6	1
④必要はない	5	6	9	6	5
回答数計	42	46	42	41	42

	1.全学生を対象とした 新入生セミナーの取 組みについて	2.教員側の アクティブ・ ラーニング を推進する 機運を高め る取組み について	3.外部試験 を取り入れ た英語教育 について	5.地域に出 て学ぶ体験 型教育につ いて	6.カリキュラ ム構成の見 直しについ て
①富山大学でもぜひ行うべきだ	20	17	17	10	19
②どちらかといえば行うべきだ	16	17	18	24	16
③必要なのはわかるが、大変そうだから行わないほうがいい	1	3	1	4	2
④必要はない	1	3	3	4	2
回答数計	38	40	39	42	39

	1.全学生を対象とした 新入生セミナーの取 組みについて	2.教員側の アクティブ・ ラーニング を推進する 機運を高め る取組み について	3.外部試験 を取り入れ た英語教育 について	5.地域に出 て学ぶ体験 型教育につ いて	6.カリキュラ ム構成の見 直しについ て
FD後の肯定的な意見(①, ②)の増減	2	-3	5	5	-1
FD後の否定的な意見(③, ④)の増減	-6	-3	-8	-4	-2
個別端末履歴からみる 否定的な回答(③, ④)から 肯定的な回答(①, ②)への変化数	5	4	8	4	3
個別端末履歴からみる 肯定的な回答(①, ②)から 否定的な回答(③, ④)への変化数	1	3	1	2	4

「第3部：富大の授業をおもしろくするために」における質疑応答のまとめ

質問① アクティブラーニングを促進する取組みについてどう思うか。

回答① 徳島大学のような全学的に強制的な方法でアクティブラーニングを促進するよりも、富山大学ではもっと自然な形でアクティブラーニングを広めることが望ましい、という信念でやってきた。具体的には、これまでに4つの学部から10人ほどの教員に協力してもらい、1つの教養科目を行ってきました。そこで、私（橋本）が監修して、協力してもらった教員に試しにアクティブラーニングを行う場を設けました。このような場をもっと広めることが大事ではないかと考えます。（教育推進センター：橋本）

質問② 外部試験を英語教育に取り入れている大学では、要件（TOEICで何点以上）に達しない学生はどれくらいいて、達しない学生にはどういうケアを行っているのか。

回答② 調査した鹿児島大学及び山口大学について、要件に達しない学生の人数等の詳細については、資料がなく分からない。

要件に達しなかった学生のケアについては、鹿児島大学では再履修者は翌年度（以降）に同じ学部・学科の正規クラスで履修しなおすことになっている。山口大学では翌年度（以降）に全て再履修クラスが設けられている（1年次に全学部で必修の「前期：英語Ⅰa・Ⅱa，英語会話Ⅰa・Ⅱa / 後期：英語Ⅰb・Ⅱb，英語会話Ⅰb・Ⅱb」）。また、山口大学は山口市内（吉田キャンパス）と宇部市内（小串キャンパス・常磐キャンパス）にキャンパスが分かれているが、再履修クラスも吉田地区と宇部地区の両方で、各1クラスずつ開講されている。（教養教育院：福田）

質問③ 上級学年の学生が下の学年のファシリテーター、ピアレビューヤーとなる件で、上級学年の学生の選び方はどうやっているのか。

回答③ 上田紀行（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 院長）「東京工業大学の教養教育」（『IDE』2019年5月号）によると、初年次の「東工大立志プロジェクト」のグループワークにおいて、ファシリテーターを担当することができる修士課程学生とは、まず修士課程1年次に教養コア学修科目「リーダーシップ道場」を修了し、さらに「リーダーシップアドバンス」に進んだ学生となっている。また「教養卒論」の執筆をサポートするピアレビューヤーを担当することができる修士課程学生とは、修士課程1年次に教養コア学修科目「リーダーシップ道場」を修了した学生となっている。このように東京工業大学では、指導能力を培うプログラムを設けることによって、新入生に対峙できる修士課程学生を育成している。（教養教育院：谷口）

質問④ 導入科目の定義は何か。

回答④ 大学入学直後の学生を対象に行われる導入期教育で初年次教育ともよばれます。具体的には、レポートの書き方、ディベート、文献資料の検索などスタディ・スキルの獲

得、情報リテラシーの習得、教職員とのコミュニケーションや学習目標や学修動機の獲得などの大学生に求められる学修・生活態度や対人関係などを身につけるためのプログラムをいいます。(教養教育院：谷井)

質問⑤ キャリア教育について、インターンシップを初年時に体験させることに対してどう思うか。

回答⑤ キャリア教育について学生はどう思うかという司会からの問いに対して「大学が就職予備校のようになるのは疑問」という意見と「人生や生き方について考える機会があるのはいいこと」という意見が出た。

就職予備校的な役割になることには違和感があるが、大学入学後の早い段階で希望する人に対しては進路を考える機会を与える意味はあるだろうし、さらに深めて自分自身を見つめ直す機会があってもよいように思える。将来像をはっきりと描きながら入学してくる学生もいる一方で、それがまだ曖昧な学生もいると考えられるので、就職だけでなく自分自身の適性や興味の対象を知るという意味でも、このような科目があるのはよいと思われるし、教養教育において幅広い内容に触れることにも大きな意義があると思う。(教養教育院：杉森)

質問⑥ キャリア教育について、人生について考えることは必要だが、このような科目の評価はどのようにしているのだろうか。

回答⑥ 質問の中にもあったように、「どんな考えを書いたら正解」とか「どんな考えをもっていたら評価が低い」などということはありません。大学によっては当該科目の評価については「合否のみ」としている例があるので、このような科目については合意を得た上で同様に扱うのが妥当ではないだろうか。(教養教育院：杉森)

質問⑦ 教養教育の将来像について、富山大学が目指す教養とはどんなものか。何を持って教養とよぶのか。専門との違いは何か。

回答⑦ まとめ・講評の中で理事から回答しましたので、〇〇ページを参照願います。

質問⑧ 地域に出て学ぶ体験型の科目について、費用・交通費はどうするのか。

回答⑧ バスをチャーターしている場合は大学で負担している例もあるが、この場合は外部資金を獲得して行われていることが多く、外部資金がなくなると規模の縮小や学生に負担させることも必要になっている。(教養教育院：武山院長)

千葉大学では学生に課す留学に関する費用のために授業料の値上げを行っている。
(教育推進センター：橋本)

質問⑨ 富山大学は国立大学なのに、なぜ地域志向なのか。

回答⑨ 地域志向というと、富山に限定した問題を志向するというふうに捉えてしまうかもしれませんが、富山という地域の問題は全国に普遍的な問題でもあります。狭い地域の

問題であっても、その問題解決の道筋は全国でも通用するものと考えられます。また、富山大学は「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に参画しているので、「地域社会との連携強化による地域の課題解決」に寄与することが求められています。富山大学は地域の中に使命のある大学といえます。その一環として地域志向科目が設けられています。（教養教育院：谷井）

第4部：まとめと講評

教養教育 FD2019

テーマ：「学生と考えるおもしろい授業」

第4部：まとめ及び講評

武山理事・副学長（教養教育院院長）

質の保証ということばが出ましたけれども、今日のテーマから学生目線で考えると、授業が面白くてためになる、そのクオリティの高さが大学の価値を高めていくことになると思います。大学の大きな機能として、そこをしっかりと確保していく必要があります。

さきほど教養の概念のご質問がありましたけれども、近代の大学ができた時には、上位学部、下位学部という構成が作られました。上位学部では、神学、医学、建築学の3学部からなる専門教育を、下位学部ではそのような専門的な知見を発揮する上で基礎となる部分、倫理感や判断力を養う哲学などを学び、それがリベラルアーツというものを構成していったと書かれています。

その理念は、現在にも生き続けていると思われそうですが、そのような部分が、今日では、人間力といった観点となって、それを求める声がいっそう高まっているのではないかと思います。ですから、今まで考えられてきた教養よりもさらに広範囲に人間をつくっていくという部分が問われているのです。

そのなかで、地域連携ということがいくつか出てきましたけれども、地域の方々と交流しながら学んでいくということが、大きな価値があると考えています。この富山という状況を考えたときに、地域と上手く関わって、学習効果を高めていくということは、効果的な教育方法のひとつと思っていますので、そういったものを推進していきたいと考えております。

いずれにしても、冒頭の鳥海副院長の話にもありましたように、カリキュラムが一周した令和4年度から新しいカリキュラムを始めたいと考えておまして、そのためには、橋本先生のご指摘にもありましたけれども、試しにやってみるということが重要ではないかと思います。令和4年からいきなりやるというのはなかなか難しい、来年度、再来年度、できることがあれば試してみると、そのなかで令和4年度からの新しい教養教育、それが下支えする学士教育というものを考えていきたいと思っています。

30年度の教養教育一元化のなかでは、こういう議論がほとんどなく、高岡に居りまして、どうなっているの？とっておりました。自分がそういうことを取りまとめる立場に立ちましたので、学生のためにどのような教育が良いのかということ、みなさんとしっかりと議論する中で、改革を進めていきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日は教養教育院の先生方が、富山大学の教育はいかにあるべきかについて議論を深められ、他大学の先例をたくさんご紹介くださいましたことを非常にうれしく存じます。ありがとうございました。

教育とは何か、非常に難しい問題でございますが、私たちは学生のポテンシャルを伸ばし、社会に有為な人間として送り届ける使命を持っております。そのために皆様も大きな努力をなされていることと思います。本日もご紹介くださいました、金沢大学、山口大学、長崎大学、山形大学、徳島大学等は、大学教育再生加速プログラムの中で改革を進めておられて、なんとかして特徴を出さなければならないと必死で取り組んだ成果だというふうに理解しております。本学はこのプログラムには出さず、その後のCOC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）の方に出しまして、地域との関係に力を入れて参りました。しかしながら、教育というところにおきましては、私たちもこれからなお工夫しなければいけないことだと思っております。私は大学とは別に学位授与機構の方で昨年度より仕事をしておりますが、その上で富山大学をみますと、主体的な学びの姿勢の養成という点と教育の質の保証の工夫という2点におきまして、他の大学と比べて本学は少し劣っているというような感想を持っております。本日の教養教育院FDのテーマのひとつになった“主体的な学びの姿勢”は、学生が自ら学び、一生その姿勢を持ち続けていく、そのような教育が今後問われています。私は古い中国について研究しておりますが、「学びて時にこれを習う、亦（また）説（よろこ）ばしからずや」は、論語の言葉としてご存じだと思いますが、もはやそういう時代ではなくて、「学んで」というところが、「学び続けて」、それを日に日に新しくしていく、あるいはそれを活用していく、というところがこれからの教育の成果として問われることではないか、というふうに思っております。本日は、教育の質の保証という点は話題になりませんでしたけれど、教育をより良いものにしていくためには、この質の保証のありかたについて工夫しなければいけないというふうに思っております。この2点について、富山大学の教員の方々は工夫をなさっているとは思いますが、さらに努力をしなければいけない点であるというふうに感じております。

先ほど「教養教育はいかにあるべきか」「教養教育とは何か」というご質問がありました。「教養教育を専門教育との関係においてどのように捉えるべきか」について、私自身も自分のこととして考えております。教養教育は学問の基盤として修得しなければいけないものであり、教養教育を通して、学問全体、あるいは社会全体、あるいは自分を見つめ、自分の立ち位置を知ること、専門教育に行く前段階できちんと学ばなければいけない、あるいは考えなければいけないと思っております。教養教育の皆さんには、今後この点についても課題として考えていってもらいたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと存じます。

教養教育院 F D 2019 アンケート

「教養教育院FD2019」学生アンケート

教養教育院教育改善検討WG

「教養教育院FD2019」に御出席ありがとうございます。今後の教養教育の一層の充実を図るため、以下のアンケートに御協力をお願いいたします。

1. 所属学部を○で囲んでください。

- ア. 人文学部 イ. 人間発達科学部 ウ. 経済学部 エ. 理学部
オ. 医学部 カ. 薬学部 キ. 工学部 ク. 芸術文化学部
ケ. 都市デザイン学部

2. 「教養教育院FD2019」に参加しての感想及びその理由を御記入ください。

- ア. とても意義があった イ. まあまあ意義があった
ウ. どちらとも言えない エ. あまり意義がなかった
オ. まったく意義がなかった

()

3. あなたにとって、富山大学で開講して欲しいと思う「おもしろい授業」とはどんな授業ですか。

()

4. あなたは本学のカリキュラム改革について、どのようなことを期待しますか。

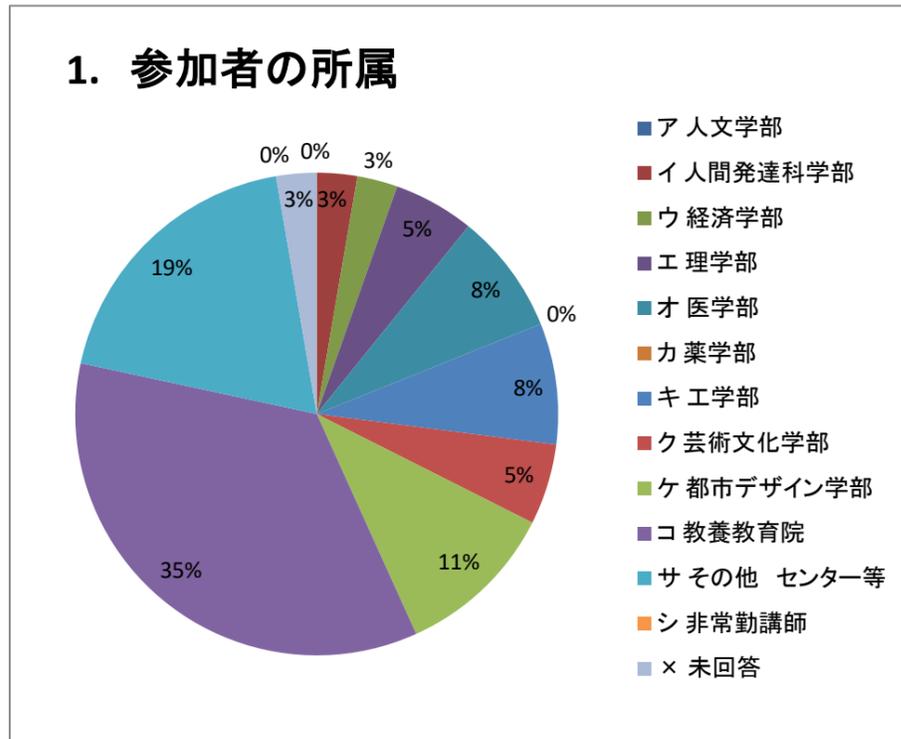
()

教養教育院FD2019教員アンケート結果

令和元年9月25日実施

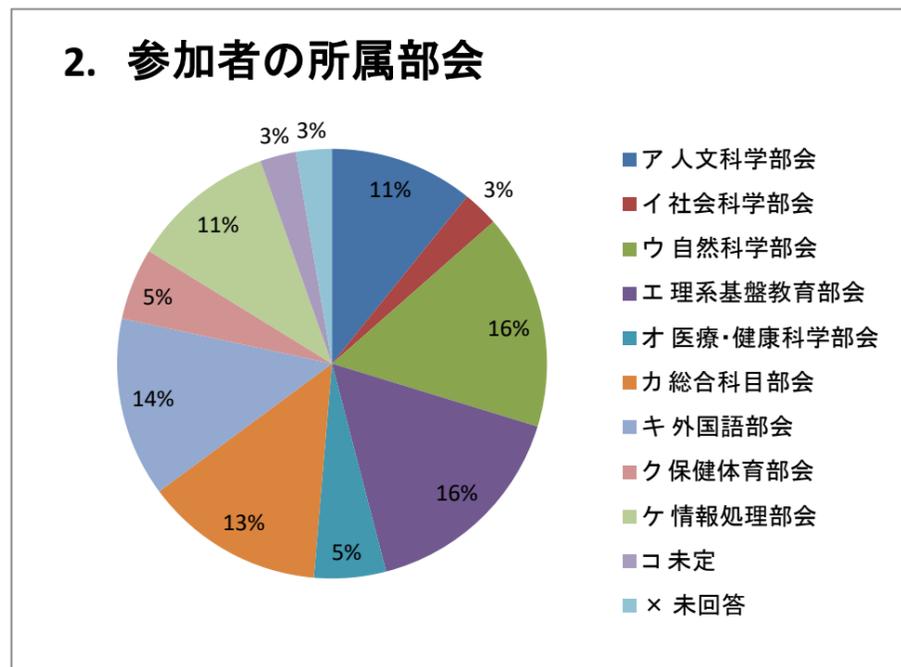
1.所属を○で囲んでください。

	所属	人数
ア	人文学部	0
イ	人間発達科学部	1
ウ	経済学部	1
エ	理学部	2
オ	医学部	3
カ	薬学部	0
キ	工学部	3
ク	芸術文化学部	2
ケ	都市デザイン学部	4
コ	教養教育院	13
サ	その他 センター等	7
シ	非常勤講師	0
×	未回答	1
	合計	37



2.所属部会を○で囲んでください。

	所属	人数
ア	人文科学部会	4
イ	社会科学部会	1
ウ	自然科学部会	6
エ	理系基盤教育部会	6
オ	医療・健康科学部会	2
カ	総合科目部会	5
キ	外国語部会	5
ク	保健体育部会	2
ケ	情報処理部会	4
コ	未定	1
×	未回答	1
	合計	37

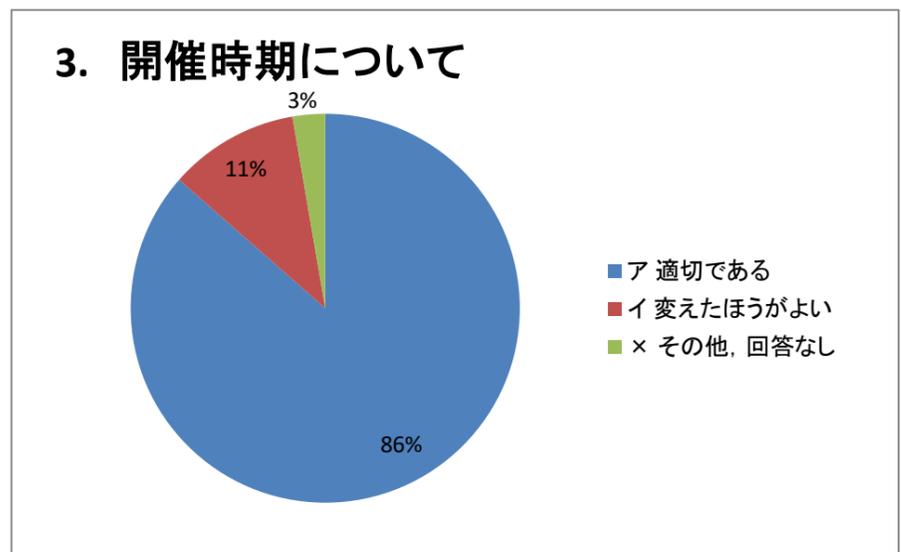


3.開催時期について、どう思いますか？

	選択肢	人数
ア	適切である	32
イ	変えたほうがよい	4
×	その他, 回答なし	1
	合計	37

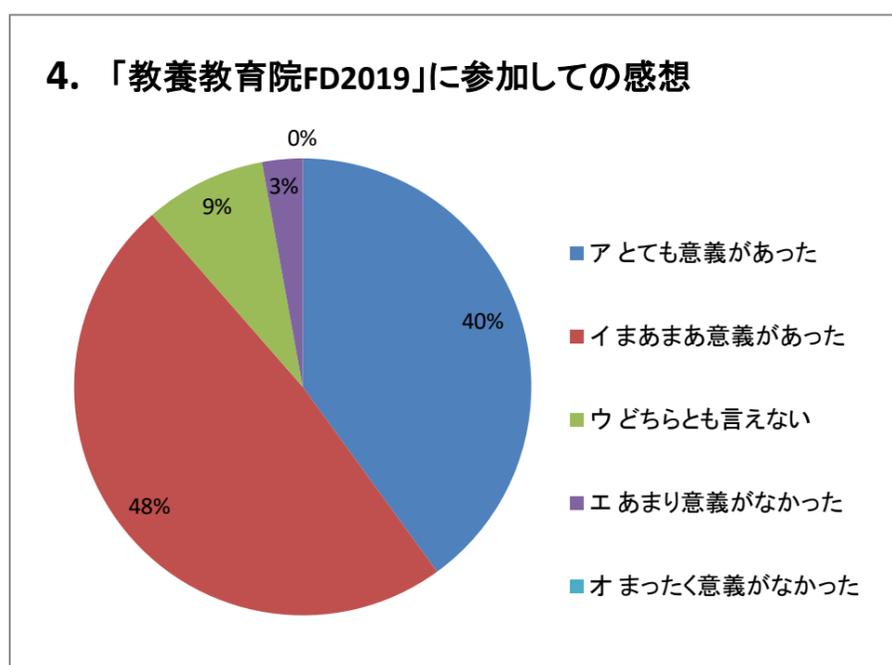
主な意見

イ	10月以降(学生の参加を見込むため)
イ	早めが良い
イ	学生が参加しやすい時期
イ	9月上旬



4.「教養教育院FD2019」に参加しての感想及びその理由を御記入ください。

選択肢	人数
ア とても意義があった	14
イ まあまあ意義があった	17
ウ どちらとも言えない	3
エ あまり意義がなかった	1
オ まったく意義がなかった	0
× 未回答	2
合計	37



「ア.とても意義があった」と答えた理由

- ・他大学の事例が参考になるものもあった。
- ・さまざまな大学の取り組みがわかり、とても刺激になりました。その一方で、やはり、そうしたカリキュラムを動かすマンパワーが必要だということを強く感じました。大幅に、根本から変えるということではなく、今あるものの、修正、加える、という形で改革をしていったらよいと思っています。例えば、今、それぞれの学部や、部会や、図書館などで特色ある企画、授業などを行っているケースもいくつかあります。それらを洗い出して、まとめて、効果的に発信するというところから始めてもよいのではないかと思います。
- ・事例報告が大変参考になりました。是非、次回も企画をお願いいたします。
- ・他大学の事例を知ることができて参考になった。

「イ.まあまあ意義があった」と答えた理由

- ・他大学の事例を知ることができた。
- ・外部試験導入については、今後英語部会で前向きに検討していく予定にしております。
- ・豊富な事例紹介があった。
- ・他大学の取り組みの具体例などを知ることができて参考になった。学生の参加も意義があったと思う。
- ・他大学の取り組みを、いろいろ知ることができ、勉強になりました。
- ・他大学の事例を紹介する場合、もっと情報がないと理解することは難しい、と感じた。もう少しpointを絞って時間をかけてはどうでしょうか？
- ・教養教育分野の視野が広がった。
- ・各大学の取り組みに新たな発想を見ることができた。
- ・日本の大学の教養教育の潮流を知ることができた。

「ウ.どちらともいえない」と答えた理由

- ・ちょっと内容が多すぎて未消化に終わった気がする。
- ・教養教育院でできることと、学部で行うべきことの整理がされていない。
- ・物理的に可能かどうか不明→学長の方針が良くわからない。
- ・アンケートの意味がない。(他大学の追随でない形を目指すべき)
- ・地域と交流していく重要性(武山院長)におおいに賛同します。

「エ.あまり意義がなかった」と答えた理由

- ・セミナーの目的が不明確でよくわかりませんでした。教養教育の課題なのか、各学部の課題なのか。

未回答

- ・いろいろ努力されているのがよく分かった。ただ、他をマネしようというのはどうか？独自の富山方式を提案して国から資金を得るのが大事。

5. 今後、「教養教育院FDで取り上げてほしい」とお考えの「テーマ」があれば、御記入ください。

- ・教養と専門の連携・協働のあり方や制度について
- ・アクティブラーニングの導入方法(具体的に)
- ・大学で教えるとは、学ぶとはどういうことか(学生も参加するFD)
- ・学生対応、助言教員としての学ぶべきこと、メンタル面
- ・社会への人材供給機関としての大学の教養教育のあり方について
- ・富山大学として「教養」をどう定義するか。「教養」と「専門」をどう位置づけるかについて大学執行部を含め全学的に丁寧な議論を行う場が必要。認識が共有される必要がある。
- ・ALの具体例
- ・アクティブラーニング的手法のメリットとデメリットについてのディスカッション
- ・「教育の質」を保証することについて
- ・推進するのであれば、Active Learningをするための初心者向け導入の講座は必要です。

6. 「教養教育院FD2019」について、御意見があれば自由に御記入ください。

- ・「学生とつくる」と思ってきたら違っていた。授業中のおしゃべりに学生はどう考えているのか聞いてみたかった。
- ・教員にも学生にももっと参加してもらいたい。
- ・FD担当の先生方、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・素晴らしいカリキュラムは魅力的ですが、それを行う組織づくりが必要だと思いました。今ある教養教育院のみの人材では難しいと思います。
- ・学生に興味ある授業を行うために、非常に参考になりました。
- ・「学生と考える」というタイトルだが、参加学生が少ない。
- ・クリッカーの選択肢を再考すべきと感じます。問われている問題の意味が今ひとつ曖昧と感じた。又、クリッカーをFDに持ち込むことには必ずしも反対ではないのですが、FD全体の議論の深みに役立ったかどうかという点には？がつかしました。
- ・企画、ご苦労様でした。
- ・ありがとうございました。
- ・第2部で6事例を扱うなど少し盛沢山ですから、時間配分が少し無理っぽいところがあります。もう少し内容を絞ってもよいのでは？
- ・他大学の事例が多く、本学の状況分析がなかったのが物足りない。
- ・主体性をもって学び続けることを学生に植えこみたく感じた。
- ・英語教育に関しては、改革が後発の富山大学に何ができるか、部会で色々と検討しております。「外部試験導入」などはわかりやすい改革とは思いますが、それがひとりあるきしてしまわないように教養教育院と部会が情報を密に好感していく必要があると思いました。
- ・3時間は長すぎます。1.5時間位がいいと思います。第3部のボタンでのアンケートですが、選択肢の中にない答えの人が押さない。また、母数が少なすぎて「報告書」にのせるのにたえうるものかは考えたほうがよいです。
- ・学生視点で考えるという考え方とともに、考える側の教育信念の重要性も重視すべきでしょう。
- ・学生さんの参加とてもよかったです。

教養教育院FD2019学生アンケート結果

令和元年9月25日実施

1.所属を○で囲んでください。

参加人数 2名

	所属	人数
ア	人文学部	0
イ	人間発達科学部	0
ウ	経済学部	1
エ	理学部	0
オ	医学部	0
カ	薬学部	0
キ	工学部	1
ク	芸術文化学部	0
ケ	都市デザイン学部	0
	合計	2

2.「教養教育院FD2019」に参加しての感想及びその理由を御記入ください。

	選択肢	人数
ア	とても意義があった	1
イ	まあまあ意義があった	1
ウ	どちらとも言えない	0
エ	あまり意義がなかった	0
オ	まったく意義がなかった	0
	合計	2

「ア.とても意義があった」と答えた理由

- ・富山大学が目指す教養教育のあり方の方向性について理解した上で、他大学での様々な取り組みについて知ることができたという点で、非常に有意義な時間だったと思います。

「イ.まあまあ意義があった」と答えた理由

- ・他大学の様々な事例が見れた。全体討議進め方は面白かった。ただ、学生の参加が少なかったので、この研修の企画自体から学生が関わるようになるようになればよいと思う。

3.あなたにとって、富山大学で開講して欲しいと思う「おもしろい授業」とはどんな授業ですか。

- ・学生が主体的、自発的に学べる授業を期待します。また、個人的には、答えのない社会問題や地域の課題について検討するような授業もおもしろいのではないかと思います。
- ・専門などにこだわらない色んな形式で社会的な内容が学べて学生が主体的に行動できる授業。
(一番好きなのは東工大立志プロジェクト)

4.あなたは本学のカリキュラム改革について、どのようなことを期待しますか。

- ・現状のように教養教育が1年次で終わってしまうのではなく、卒業にかけてじっくりと教養教育を学べるようなカリキュラムを期待します。
- ・学部学科を超えた、専門にこだわらない様々な選択(転学休学含む)ができる仕組みを作って欲しい。

教養教育院 F D 2019 に寄せて

教養教育院FD 2019に寄せて

今回の教養教育院主催FDに参加し、外部テストを取り入れた習熟度別英語カリキュラムの先行事例の紹介を受け、具体的な実施方法や結果などを知ることができました。その意味は決して小さくなく、教養教育院FDに参加した意義はここに集約できます。その一方で、外部テストを使った習熟度別教養英語カリキュラム先行事例の印象について、事前・事後に4択で集計された結果が、あるべき英語教育の姿として独り歩きするのではないかという懸念を抱いています。英語分科会では令和4年度からの教養教育カリキュラム改革の責任母体として、令和元年9月からワーキンググループを立ち上げ、月1回の定例会議を通じてそのありようについて議論を重ねています。外部テストを使った習熟度別教養英語カリキュラム編成はその議論の1つであり、習熟度別カリキュラムの導入の可否も含め、議論を重ねつつ、少しずつではありますがその輪郭を具体化させているところです。実行可能で堅固なカリキュラムの構築には、ある一定の時間を掛けた慎重な議論が必要な一方で、改革には時限の制約があり、スピード感を伴わせる必要もあります。これらの諸要因をクリアし、富山大学としてよりよい教養英語カリキュラムを構築するためには、関係方面との意思疎通を伴った議論が必要となって来ます。令和4年度からの教養教育カリキュラム改革に向け、教養教育院と各部会との連携が、少なくとも今後一定期間極めて重要となってくると考えています。

外国語部会英語分科会教養英語カリキュラム検討WG

あとがき

今回の教養教育院 FD にご参加の皆様におかれましては、FD の趣旨をご理解下さり、活発なご議論を頂戴し、企画に当たった教養教育改善検討 WG よりお礼申し上げます。また、外国語部会英語分科会教養英語カリキュラム検討WGから、令和4年度からの教養教育カリキュラム改革に向け、貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。

今回の FD は、令和4年度に行われるカリキュラム改革を念頭に置いたものです。他大学の事例の多くは文部科学省からの資金援助を受けて、それぞれの大学が特色を打ち出したプログラムです。これをそのまま富山大学に当てはめて、改革を行うことは、資金、人材などの現実面で困難があることが予想されます。しかし、少子化日本を支える高等教育機関として富山大学にも教育改革が求められています。また、富山大学には地域と連携する大学として、地域で活躍できる人材を輩出する使命があります。今回の事例紹介をもとにこれから行うべき改革を学部所属の教員と共に考えたいと思います。

本学の教養教育をより良いものとするため、引き続き、学部等の御理解・御協力を得ながら、更なる教育改革・改善に取り組みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

令和元年度教養教育改善検討WG座長 谷井一郎

令和元年度富山大学教養教育院FD2019 報告書

教養教育院教育改善検討ワーキンググループ

WG座長：谷井 一郎

杉森 保

谷口 美樹

福田 翔

水谷 秀樹